

~普く絶えず 正しく~  
未来につなぐ夢

# 創立 90周年記念誌







# フォトアルバム

1925年～2014年



# タイムスリップ

—— 90年の歴史を当時の貴重な写真を基に綴ってみました ——

1925年～  
大正14年



第13回山陰オリンピック大会(1925年／大正14年)



山陰オリンピック時代の大会本部席(1925年／大正14年)



山陰オリンピック時代の入場風景(1925年／大正14年)

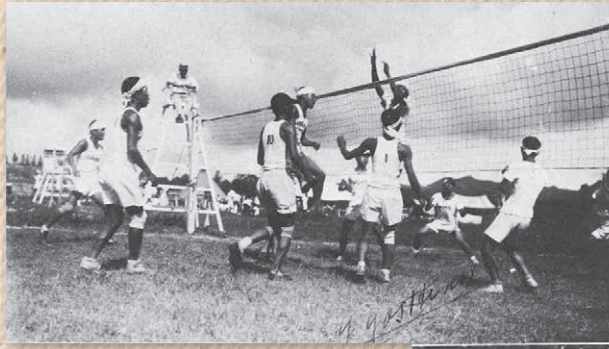


山陰オリンピック当時の事務所(1925年／大正14年)



報国剣道大会(1930年／昭和5年)



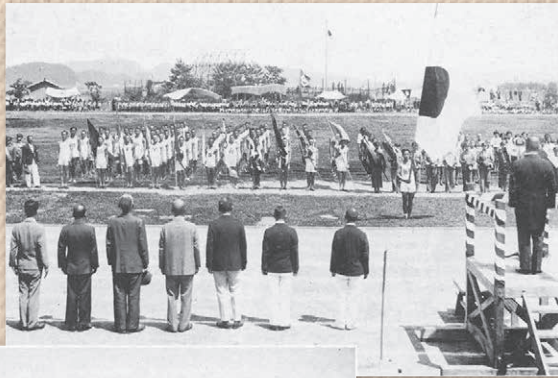


島根県中学校体育大会(1931年/昭和6年)

上御殿跡テニス場にて(1932年/昭和7年)



1940年～  
昭和15年



第28回全山陰陸上選手権大会  
(1941年/昭和16年)



体操祭(1943年/昭和18年)

1950年～  
昭和25年



松江市内女子高校合同体育大会(1945年/昭和20年)



第1回玉造毎日マラソン(1958年/昭和33年)



1960年～  
昭和35年



スポーツ百人会で優勝楯を配る  
(1961年／昭和36年)



東京オリンピック聖火歓迎(県庁前)(1964年／昭和39年)



岸清一郎銅像前にブランデー氏花輪を供える(1964年／昭和39年)



ブランデー氏歓迎会(1964年／昭和39年)

1970年～  
昭和45年



郷土スポーツ人顕彰展(1973年／昭和48年)



津田晴一郎、吉岡隆徳、森山時雄三よりオリンピック記念品寄贈  
(1978年／昭和53年)

1980年～  
昭和55年



くにびき国体炬火リレー市街地を走る  
(1982年／昭和57年)



全国の精鋭が集まった開会式(くにびき国体主会場)(1982年／昭和57年)

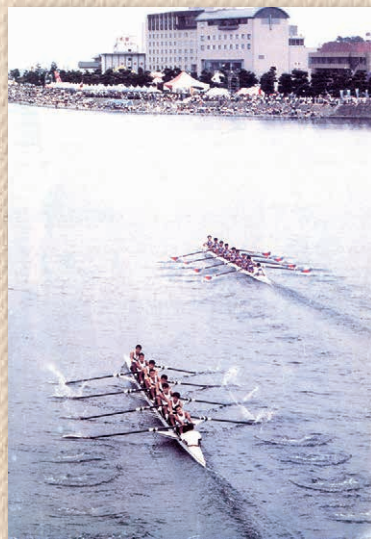


健康ひろば少年のランニング  
(1982年／昭和57年)





第5回全国スポーツ・レクリエーション祭(1992年／平成4年)



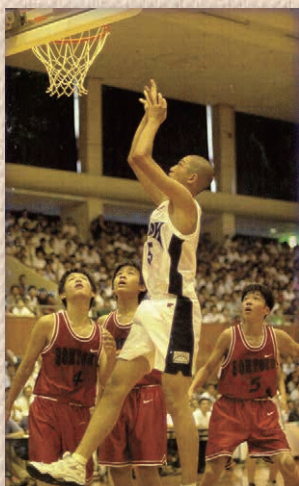
早慶レガッタin松江(1993年／平成5年)

1990年～  
平成2年



まつえテニスフェスタ2000(2000年／平成12年)

2000年～  
平成12年



第31回全国中学校バスケットボール大会  
松江市立湖東中学校優勝(2001年／平成13年)



松江体育協会80周年記念事業(2004年／平成16年)





世界陸上アイルランド陸上チーム事前合宿(2006年／平成18年)



新松江市合併記念市民体育祭  
第30回「地区対抗大運動会」(2006年／平成18年)



アイルランド陸上チーム北京オリンピック事前合宿(2007年／平成19年)

2010年～  
平成22年



第33回地区対抗大運動会(2012年／平成24年)



～未来につなぐ「若い力」～

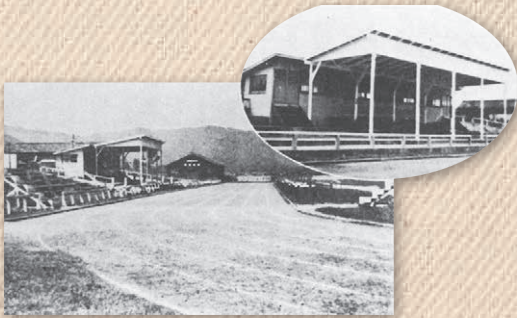
2014年～  
平成26年



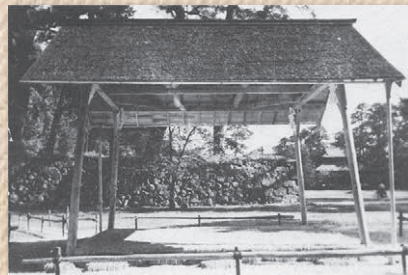


# 松江市体育施設の今昔

—— 覚えて居ますか？ 見たことありますか？ ——



昭和運動場竣工(1929年／昭和4年)



城山勢溜相撲場(1938年／昭和13年)



岸運動場(1939年／昭和14年)



全日本高校男子バレーボール大会(椿谷バレーコート)  
(1951年／昭和26年)



全国教員バレー三連覇の松江教員(1953年／昭和28年)



本庄中海水プール  
(1955年／昭和30年)



椿谷バレーボールコート



1中プール竣工(1960年／昭和35年)



楽山テニスコート(1969年／昭和44年)



さようなら野球場(1974年／昭和49年)



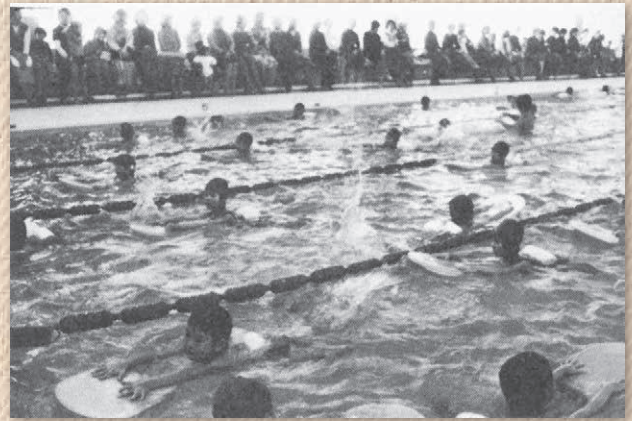
さようなら陸上競技場市民体育祭(1977年／昭和52年)







松江市総合体育館竣工(1976年/昭和51年)



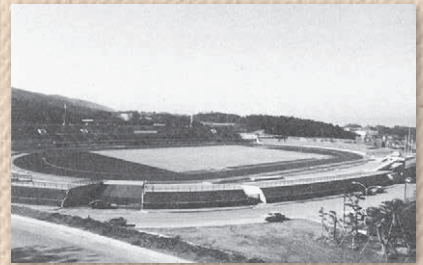
屋内温水プール竣工(1976年/昭和51年)



楽山庭球場竣工(1969年/昭和44年)



松江市営野球場竣工(1978年/昭和53年)



松江市営陸上競技場竣工  
(1981年/昭和56年)



楽山仮設野球場開き(1976年/昭和51年)



松江市営庭球場竣工(1980年/昭和55年)



補助競技場竣工(1978年/昭和53年)

## 新体育館完成予定図



2017年/平成28年4月完成予定



# 郷土のスーパーアスリート

— 記念すべき90周年の年に大活躍したスーパーアスリート —

## 錦織 圭 Kei Nishikori



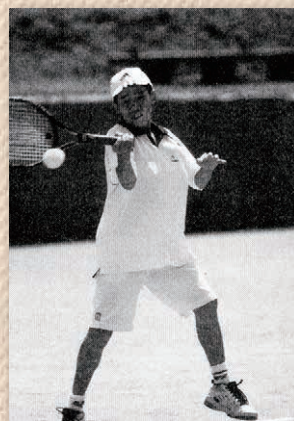
錦織、世界1位破り決勝へ  
テニスの全米オープン男子シングルスでジョコビッチを破り決勝進出を決め、跳び上がって喜ぶ錦織圭=6日、ニューヨーク(ゲッティ=共同)



パブリックビューイング



寄せ書き



平成14年 会報第31号  
(小学6年生)「期待しています。我らがホープ」より



平成18年 会報第35号  
(15才)「期待しています。我らがホープ」より

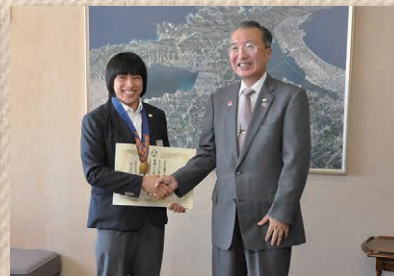


平成19年 会報第36号より特別功労賞受賞時



## 渡利 璃穩 Rio Watari

アジア大会レスリング63kg級優勝



## 青山 聖佳 Seika Aoyama

アジア大会4×400mリレー2位



## 梶谷 隆幸 Takayuki Kajitani

プロ野球セ・リーグ盗塁王



©YDB



©YDB



©YDB

## 新宮 有依 Yui Shingu

女子野球ワールドカップ優勝







公益財団法人 松江体育協会  
会 長 松浦 正敬

公益財団法人松江体育協会創立90周年にあたり、大正・昭和・平成と受け継がれてきた足跡をたどるとともに、100年、110年と、明るい未来に向けて希望を綴る90周年記念誌『未来につなぐ夢』を発刊できますことは、まことに意義深く喜びにたえないところであります。

ご承知のとおり、本会は大正13年5月1日に設立されて以来、「普く（あまねく）」「絶えず」「正しく」のスローガンのもと伝統と業績を継承し、広く体育・スポーツの普及・発展と競技力向上に資する事業を行い、地域住民の体力向上と健康増進に努めて参りました。

このような取り組みが現在も脈々と推し進められますのも、設立当時の諸先輩はもちろんのこと、現在に至るまで本会に関わっていただいた皆様方の並々ならぬご努力とご苦勞があったことと推察し、その業績に対して深く敬意を表する次第であります。

さてこの度、記念誌の発行にあたりその歴史を顧みますと、組織の基盤強化を図り各種事業を推し進めるために大きな転換期が幾つかございました。

その一つとして、昭和54年にスポーツの振興と強化の取り組みを積極的に進めるために、財団法人化を実現したことでございます。これにより、昭和57年の「くにびき国体」においては、聖火リレー等のイベントやその他式典・地域行事にも積極的に参加して、市民のスポーツに対する関心を大きく向上させ、地域スポーツの発展に寄与できたものと思っております。

時をおきまして、一昨年平成25年4月には「公益法人制度改革関連3法」の施行に伴い、公益財団法人への移行申請を行いその認可を受けました。移行から約2年が経過して、各種事業の見直し、また競技力の向上などを図りながら、より広く地域スポーツの普及・発展に努めて参っておりますのでございます。

このように、基盤強化を図り各種事業をすすめた成果といたしまして、いみじくも90周年を迎えた昨年、強化育成において蒔いた種が見事に実を結び、若手選手の活躍という大輪の花を咲かせました。特に本市出身の錦織圭選手が、全米オープンテニスで準優勝、世界ランキングでも5位にランクインという快挙を達成され、本市はもとより日本中を熱狂の渦に巻き込まれたのは、記憶に新しいところでございます。他にも、アジア大会に日本代表として出場され、優秀な成績を収められたレスリングの渡利璃穂選手と陸上の青山聖佳選手。また、プロ野球の梶谷隆幸選手、女子野球の新宮有依選手と、それぞれの競技において日本を代表する選手として活躍され、本会の90年の歴史に新たな輝かしい記録を刻まれました。

本会においては、こうした歴史と実績を礎として2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、前出のトップアスリートに続く若い選手の育成に努めるとともに、市町村レベルの体育協会としては山陰では唯一の公益法人としての自覚と自負を持って、地域におけるスポーツの普及・発展に努めて参る所存でありますので、今後ともより一層のご支援ご協力いただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、松江市当局をはじめ松江市教育委員会、鳥根県体育協会並びに関係機関の皆様のご指導ご支援に対し、改めまして感謝と敬意を表すとともに、本記念誌発刊に当たり貴重な資料や原稿をお寄せいただきました関係各位に、厚くお礼申し上げます発刊のごあいさつといたします。





公益財団法人 島根県体育協会

会 長 溝口善兵衛

このたび、公益財団法人松江体育協会におかれましては創立90周年をお迎えになり、心からお喜び申し上げます。

また、創立から今日までの歴史をまとめた90周年記念誌が発刊されることは、これまでの歩みを未来に繋げる貴重な記録として、まことに有意義なことであり深く敬意を表する次第であります。

貴協会は、大正13年5月1日に創立されて以来、終戦直後の島根県体育協会の再建にもご尽力いただくなど、島根県における地域スポーツ界のリーダーシップを発揮され、今日まで幾多の困難を乗り越えながら発展してこられました。

とくに、昭和54年7月からは財団法人として基盤強化された新体制のもと「くにびき国体」の成功に大きく貢献されました。また、平成25年には公益財団法人に移行され、社会的な信頼性をあげることにより、これまで以上に地域スポーツの発展に寄与されております。

2020年には東京オリンピックが開催されることが決定し、日本全国でスポーツに対する関心が高まる中、テニスの錦織選手のように松江市出身の選手が、世界一を競う桧舞台に立ち、活躍をすることは、松江市民をはじめ島根県民の誰もが願っていることに違いありません。

少子高齢化が進む社会状況において、明るく豊かで活力ある社会の形成に寄与するスポーツは現代社会になくてはならないものとなっております。私たちは、可能性への挑戦と人々に夢や感動を与えるスポーツの普及について、貴協会をはじめとする関係団体の皆様のご協力をいただきながら、積極的に推進してまいり所存でございます。

公益財団法人松江体育協会におかれましてはこれまでの活動とその成果を基に、ますます発展し、飛躍されんことを祈念いたしまして発刊によせる言葉といたします。





松江市議会

議長 三島 良信

このたび、公益財団法人松江体育協会が創立90周年を迎えられましたことに、心からお祝いを申し上げます。また、この節目に数々の業績を後世にとどめられる記念誌を発刊されることは誠に意義深いことであり、心からお喜び申し上げます。

貴協会におかれましては大正13年の設立以来、輝かしい伝統と業績を後世に継承しつつ、スポーツを通じた社会貢献に情熱を傾注してこられました。あらためて皆様方のご努力に深く敬意を表します。

松江市は「スポーツ都市宣言」を行い、健康づくりのための市民運動、スポーツ施設の整備、生涯スポーツの振興などに積極的に取り組んでおり、貴協会のご協力により着実に実を結びつつあることに改めて感謝申し上げます。

近年は、市民のスポーツに対する接し方も多様化し、競技性の高いものから生涯スポーツとしてレクリエーション性の高いものまで幅広く行われるようになりました。「する」スポーツに「みる」「ささえる」スポーツの視点を加え、楽しみながら日々の生活にスポーツを取り入れる生涯スポーツ社会の実現をめざして、松江市では平成20年に「松江市スポーツ振興計画」が策定されております。

一方、平成28年春のオープンをめざして現在新体育館の建設が進められております。新体育館には、岸 清一氏をはじめ松江のスポーツ振興に貢献された先人やトップアスリートなどの顕彰コーナーが設置されると伺っております。地域のスポーツ振興に果たされた先人諸氏の功績などの情報発信の場としても期待しております。

さて、いよいよ今年からは5年後の東京オリンピック・パラリンピックに向けて準備が本格化しますが、自国開催のオリンピックは若い選手諸君や将来を担う子どもたちにとっては何よりの目標となり、励みとなることでしょう。また錦織圭選手の世界の大舞台での更なる活躍も、私たちにスポーツの躍動感や楽しさを味わわせてくれるものと大いに期待しているところです。

貴協会におかれましては、これまで以上にスポーツの競技力向上はもとより、スポーツに親しむ人の裾野拡大にご尽力いただき、スポーツの振興と地域の活性化を図っていただきますようお願い申し上げます。

結びに松江体育協会が、創立90周年を節目として、更に発展されますことを祈念いたしまして発刊に寄せる言葉といたします。





松江市教育委員会

教育長 清水 伸夫

公益財団法人松江体育協会が創立90周年を迎えられ、この間の歴史を綴る記念誌が発刊されますことは、まことに意義深く、心からお喜び申し上げます。

貴協会は、大正13年5月に松江市連合青年会が中心となって、最初に陸上競技の充実を図ることを目的に結成され、大会や講習会などにより、組織の拡充に努めてこられました。今日では、39団体を統括され、地域スポーツの普及と振興に大きく貢献されていることに対しまして、深く敬意を表するものであります。

昨今の情勢としては、少子高齢化社会、情報化社会など社会情勢がめまぐるしく変容を遂げ、様々な価値観が生まれています。そのような中、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、日本に喜びと希望をもたらし、子どもたちに夢を与える契機となりました。このことは地域住民が運動・スポーツに関心や親しみを持つ大きなきっかけとなり、地域住民に身近な存在である体育協会の役割も増大してくると考えております。

そして、2014年はスポーツ界でも大きな出来事がありました。テニスの錦織圭選手が、全米オープンでの準優勝やアジア人初となるツアーファイナルの進出、そしてベスト4という輝かしい成績を残しました。錦織選手の活躍は、日本テニス界の歴史を塗り替え、そして日本中が感動するとともに松江市民にとりましても、勇気と元気を与えてくれました。この他にも、レスリングの渡利璃穂選手、陸上短距離の青山聖佳選手など、松江市出身の選手が、世界レベルでの活躍をする場面が増えてきています。このことは、競技力向上やジュニア選手の育成などに積極的に取り組んでいただいている貴協会にとりましても大きな励みになると存じます。

教育委員会としても、子どもから高齢者までの幅広い年齢層で運動やスポーツに親しみ楽しむことができる環境整備に取り組んでいます。そのため、貴協会や関係団体の皆様と一緒に、これまで以上に連携を深め、進めてまいりたいと思っています。

結びに、松江体育協会が創立90周年という節目を契機に更なる発展を遂げられますことをご祈念するとともに、本誌編纂にあたりご尽力された方々に対し、深く感謝申し上げます。お祝いの言葉といたします。



創立90周年実行委員会委員長  
(松江体育協会総務企画委員長)

## 金山 滉

松江体育協会は大正13年5月1日に「普く・絶えず・正しく」のスローガンのもと「広く体育・スポーツの振興に関する事業を行い、もって住民の体力向上に寄与する」ことを目的に創立され本年で90周年を迎えることになりました。

大正2年10月31日、松江市連合青年会の結成を記念して開催された陸上大運動会が、山陰オリンピックにまで発展し、山陰両県はもとより、兵庫・山口県からの参加もあり大会は3日間にも及ぶようになりました。然しながら回を重ねる中で、組織の若返りと運営の近代化を叫んで立ち上がった青年部をマスコミ各社も強く支援し、大正13年5月1日に「松江体育協会」の誕生につながりました。この年から山陰オリンピックは松江体育協会の主催となり、現在、全山陰陸上競技大会として引き継がれ本年で98回大会を迎えます。

さて、その後松江体育協会は昭和54年7月2日に財団法人として認可を受け、さらに平成25年4月1日には「公益財団法人松江体育協会」として認可され、改めてスタートを切ったのであります。

昨年はプロテニスの錦織圭選手（全米オープン第2位）をはじめ、レスリングの渡利璃穂選手（アジア競技大会63kg級優勝）、陸上の青山聖佳選手（アジア競技大会4×400m第2位）、野球の新宮有依選手（IBAF女子野球ワールドカップ優勝）、梶谷隆幸選手（プロ野球セントラルリーグ盗塁王）と松江市出身の若い選手が国内外で大活躍をしたことは皆様方ご承知のとおりです。

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定した今日、まことに楽しみであります。競技団体の皆様方の更なるご指導、ご尽力のもと1人でも多くの松江市出身の選手が出場できるよう願うところです。

また、一方では創立90周年を機に今一度創立の精神に立ち返り、高齢化を迎える中で、行政と連携を図り市民の体力の維持、増進にも貢献できるよう努力したいものであります。



# 松江体育協会歴代会長



初代  
(大正13年～)  
高橋 義比



第2代  
(大正14年～)  
高橋 節雄



第3代  
(昭和4年～)  
石倉 俊寛



第4代・第8代  
(昭和20年～・昭和26年～)  
熊野 英



第5代  
(昭和20年～)  
島田 兵蔵



第6代  
(昭和22年～)  
桜内 乾雄



第7代  
(昭和24年～)  
小林 誠一



第9代  
(昭和38年～)  
斎藤 強



第10代  
(昭和52年～)  
中村芳二郎



第11代  
(平成元年～)  
石倉 孝昭



第12代  
(平成5年～)  
宮岡 寿雄

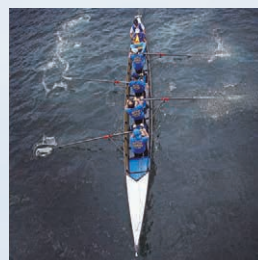


第13代  
(平成12年～)  
松浦 正敬



—— 松江体協スローガン ——

# 普く 絶えず 正しく



## —— スポーツ都市宣言 ——

私たち松江市民は、スポーツを愛し、  
スポーツをとおして健康な心とからだをつくり、  
明るく豊かな松江市をきずくため、  
ここにスポーツ都市を宣言します。

\*

1. 私たちは、毎日の生活にスポーツを取り入れます。
1. 私たちは、スポーツをとおして、しあわせな家庭と明るいまちをつくります。
1. 私たちは、スポーツをとおして活力のある豊かな松江をつくります。

平成18年10月8日

松 江 市



# 寄稿文

## 平成26年度 特別功労賞受賞者

松江地区レスリング協会 渡利 璃穂  
松江市軟式野球連盟 新宮 有依  
松江地区レスリング協会 高村 行雄  
松江市陸上競技協会 川本 恵美

## 90周年記念特別功労賞受賞者

公益財団法人松江体育協会 理事 松江市弓道連盟 名誉会長 須田 浩次

## 応援メッセージ

島根県テニス協会 会長 糸原 次之  
玉湯ジャイアンツ野球スポーツ少年団総監督 総監督 岡本 一良





## 世界へ向かって

松江地区レスリング協会  
渡利 璃穂

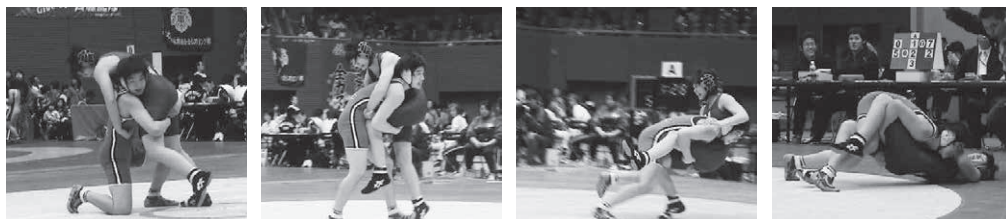
**私**は、アジア大会レスリング女子63kg級で優勝し、金メダルを獲ることができました。

大会2週間前には、世界選手権にも初出場しましたが、1回戦で、リードしてむかえた試合の終盤で逆転され、最終的にフォール負けという情けない形になってしまいました。両足タックルに入る時、気持ちのどこかでびびって腰が引けたり、手の力が抜けたりしたことがありました。取り切れなかったのは、前に投げられて負けた時のことがあって、「また投げられてしまうんじゃないかな」という気持ちがどこかにあったんだと思います。最後は相手の気持ちに自分の気持ちが負けていたのかな、と感じました。最後まで取り切ること、力を出すこと、相手の返しに負けない気持ちなどが大切だと感じました。

アジア大会までの2週間で気持ちを切り替え、今大会は練習通りにリラックスすることを心掛けました。一方で、どんなことが起こっても勝つんだと自分に言い聞かせました。

1階級上の元世界王者を相手にした決勝戦では、またもリードしながら逆転された終了間際、右手をつかまれて自由がきかないという苦しい状況に追い込まれました。しかし今回は、残り15秒で時計が見えて、思い切り体全体でぶつかって相手の体勢を崩してタックルへ。相手がこらえられず、しりもちをついたのが、試合時間残り3秒でした。大きな敗戦があったからこそ、それを糧にして勝利をつかんだ瞬間でした。これから世界で戦い、そして勝っていくための貴重な経験になりました。

アジアで勝ったとは言え、まだまだ負けっ放しの相手が世界にはいます。今年の世界選手権にも必ず出場し、まずは、世界のメダリストを目指します。そして来年のリオデジャネイロ・オリンピックでは、金メダルを狙います。既に、東京オリンピックの強化選手にも指定されていて、もちろん目指すは2連覇です。これからも応援よろしくをお願いします。





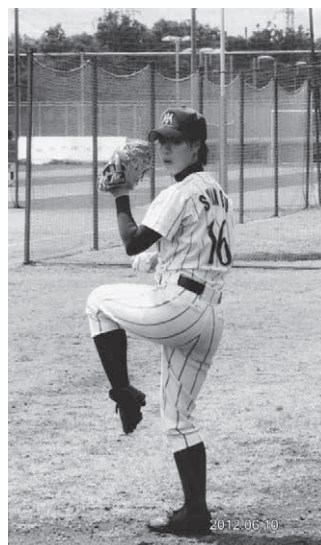


## 世界へ向かって

松江市軟式野球連盟  
新宮 有依

**私**は小学校3年生から本格的に野球を始めました。中学生の頃に女子野球の世界大会があることを知り、その頃から「日本代表になってプレーする」という夢をもち、高校では親元を離れ女子野球の名門である埼玉栄高校に進学しました。初めて女子野球の世界で野球をしてきましたが、男子野球にはない魅力をまた感じる事ができました。そして、大学一年生に初めて日本代表に選出していただきました。そして今年も代表選出をしていただき、史上初の四連覇を達成することができました。女子野球の世界大会は大会を重ねるごとにレベルがあがっています。私は今回で世界大会に出場するのは三回目ですが、今回の大会は個人的に納得いくプレーがまったくできないまま終わってしまいました。しかし、新しい課題、やらなきゃいけないことが明確にわかった大会でした。この悔しさを忘れず、また二年後の世界大会（韓国）に向けて練習していきたいと思います。また、女子野球はまだまだ、知名度が低いのが現状です。少しでもたくさんの方に知っていただけるよう、女子野球発展に協力していきたいと思います。

最後になりましたが、こうして私が野球を続けていられるのも支えてくれている家族や応援してくださる方々のおかげです。感謝します。







## 渡利璃穂選手について

松江地区レスリング協会  
高村 行雄

顧みますと、松江体育協会との係りは、昭和63年に松江地区レスリング協会を設立し、松江体育協会へ加盟してからでございます。

以来、新年賀会の優秀選手表彰では、松江レスリングクラブの子供たちは、毎年表彰していただいております、それを励みに頑張っています。

その一人だった渡利選手は、城北小1年から武道館教室でレスリングを始め、5年生から松江レスリングクラブ所属で全国大会へ出場しました。

最初の全国大会は、1回戦負け、しかしここで彼女のやる気に火が着き、6年生の全国大会で2位に入賞することが出来ました。

松江一中に進んでからは、柔道に入部し、レスリングと両立しながら、3年生時、全国中学生レスリング選手権で見事優勝しました。

その後、中京女子高（現、志學館高校）、志學館大学へ進学し、栄先生、吉田沙保里選手などの指導により、高校、大学でも優勝を重ね、ついに昨年12月の全日本選手権で初優勝、社会人になった今年6月、全日本選抜選手権で同じく初優勝し、世界選手権、アジア大会の出場切符を手に入れました。

しかし、世界選手権では、ラスト30秒で守りに入り、逆転でまさかの1回戦負け、女子は、吉田選手などの活躍により金メダル4個の好成績で団体優勝しました。よっぽど悔しかったのでしょうか「もう負けたくない」と祝勝会の帰り際、渡利が叫びました。思わず私は、「負けたくないでは駄目だ、勝ちたい、勝つと思え」、「お前のレスリングは、守って勝つレスリングではない、最後まで攻めるレスリングだ」とアドバイスしました。幸い2週間後にアジア大会、早々に今の気持ちをリベンジする機会が出来た事も良かったと思います。

アジア大会は、世界選手権とは違い顔に笑みがあり、余裕が感じられました。結果、準決勝、決勝では世界チャンピオン経験者を破り、特に決勝の中国選手には、ラスト10秒を切ったからのタックルで劇的な逆転勝利での金メダル。

勝因は、自分で決めて臨んだ、最後まで足の動きを止めずに、最後まで攻めきることが実践できたことだと思います。

アジア大会の表彰式、一番高い所で「君が代」を聞いている渡利を見て本当に誇らしく思いました。

しかし、皆の夢は「璃穂をRioへ」彼女には、オリンピックへ向かって、最後まで攻め続けて欲しいと思います。

皆さんの応援、よろしく願いいたします。



## 青山聖佳選手について

松江市陸上競技協会  
川本 恵美

**青**山聖佳さんは中学校の頃から注目されていました。高校入学当初から、レースに対する自分のスタイルがあり、ほかに惑わされることなくレースに集中することができる、ほかの選手とは少し違った選手でした。また、ひたむきにトレーニングに向かう姿勢がみられ、さまざまな合宿や大会で、いろいろな方から指導・助言をいただきましたが、どんなことでも実践する素直なところも持っています。このような選手だからこそ、少しずつでも自己記録を伸ばしていったのだと思っています。

今後、日本のトップレベルの選手たちと、肩を並べて活動する機会も多くなると思います。しかし、注目される選手になっても、おごることなく素直で、正直な選手であり続けてほしいと思います。そして、これからも活躍することを期待しています。







## 私の原点は松江城山弓道場

公益財団法人松江体育協会 理事  
松江市弓道連盟 名誉会長

須田 浩次

公益財団法人松江体育協会が、創立90周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。この一世紀に近い歴史の中で、松江体育協会ではスポーツの普及、振興そしてスポーツを通して地域住民の健康保持増進に多大な貢献をしてこられました。

近年の松江体育協会の組織変更の流れとして、平成23年頃から県の指導のもとに現状に合わせた公益財団の法人化が進められ、平成25年4月1日付で公益財団法人に移行されました。平成24年度初めにかけて、理事会でも再三協議が図られ出来上がったものです。

一方、私が加入している上部組織、全日本弓道連盟でも平成22年頃から協議がなされていました。財団法人から公益財団法人に平成23年11月1日に生まれ変わり①組織体制の強化②財務体制の整備・改善③公益的事業における公正性確保など、いくつかの課題が提示され、現在実施されつつあります。

このように時代は刻々と流れて参りますが、一方で記憶に残す作業もしていくのも私たちの重要な役目ではないかと思ひ、この度の本寄稿の依頼をお受けするにあたり、事務局の了解をいただき、私がかかわって参りました弓道場の歴史について書かせていただくことにいたしましたので、ご了承下さい。

### 〈3人立の城山弓道場〉

(昭和20年8月) 松江城山公園の二の丸北側にあった武徳殿と弓道場は、終戦によって進駐軍のもとで武徳殿はグラウンドハウスとして接収され、隣接していた弓道場は駐車場として取り壊されました。

(昭和28年) 松江弓道会では、弓道場の現状回復のため再三陳情した結果、待望の3人立ちの弓道場が建てられました。当時、山陰地方初の弓道場として親しまれ、一般、高校の各種大会及び講習会等に使用され、沢山の指導者がこの弓道場から巣立ちました。実は、私もこの弓道場の教室に行ったことが弓道を習い始めた(昭和42年8月)きっかけです。

(昭和45年7月) 鳥根県立武道館が竣工され、弓道場も併設されました。

(昭和48年4月) 文部省の文化財保護と城山周辺整備計画に伴い、武徳殿と弓道場は共に撤去されることとなりました。

(昭和53年5月) 松江城山弓道場の代替として、松江市総合体育館の裏側にプレハブ建の3人立ちの弓道場が市の援助により建設されました。

(昭和57年3月) 鳥根国体開催に伴う公園整備により再度撤去されました。

(平成元年4月) 県職員会館の建設に伴い、松江市学園通りに移築。仮弓道場として26年目を迎えています。



昭和28年6月 城山弓道場

### 〈松江市弓道連盟の発足と松江体育協会への加入〉

(昭和41年10月) 松江弓友会が発足されて、松江体育協会に単独で加入していましたが、平成11年3月に松江市内の弓道団体(9団体)が一つになり、松江市弓道連盟を発足し、松江体育協会に加盟して現在に至っています。ちなみに、松江市弓道連盟の母体である松江弓友会は、平成22年1月に地域の武道振興発展に貢献したことに對し、日本武道協議会から表彰の榮に与りました。



以上、松江体育協会の記念誌発行にあわせ、所属団体の弓道連盟の礎である弓道場の変遷等々について、思い出すままに綴らせていただきました。

結びになりますが、90周年という節目にあたりまして、松江体育協会並びに各加盟団体が100周年へと益々榮えられんことを祈念いたします。



## もうすぐグランドスラム優勝 錦織圭選手

島根県テニス協会

会長 糸原 次之

今から約半世紀前に島根県テニス協会が創立され、それから26年経過した年の12月に錦織圭選手が誕生しました。

彼は初め祖父の勧めで軟式テニス教室に入りましたが、一般の子ども達と同じメニューでは物足らずもっと違う内容との気持ちがあったようです。やがてテニス（硬式テニス）に転向し、その能力を発揮することとなります。松江のテニス教室でのレッススが、現在の「もうすぐグランドスラム優勝」の基礎になっています。

世界で活躍し勝利する度にインタビューに応じて彼は思いや考えを答えています。小学校時代と変わらないのは、控え目で純な気持ちを語るどころです。

私が錦織選手とはじめて出会ったのは、小学校3年生の彼とダブルスの試合をした時です。彼はボールを追うのではなく、ボールの方向をすばやくキャッチして返球するプレーでした。

2度目の出会いは彼が小学校6年生の時です。私が乃木小学校へ赴任して彼を見つけました。過去の試合のことはすぐに思い出せなかったようです。

最も印象に残っているのは2012（H24）年5月1日出雲縁結び空港での出会いです。私は毎年楽天ジャパンオープンテニスの準決・決勝と観戦していましたが、彼のプレーを見ることはできませんでした。空港出口で「今年は必ず貴男のプレーが見たい」と話し掛けたところ、自信があったのでしょうか、「最後まで頑張ります」と力強い答えでした。その通りその年は優勝しました。優勝が決まった瞬間、有明の室内アリーナは興奮のるつぼ化し、その中に私が参加できた幸せを忘れることはありません。

そして2年後2014（H26）年2月全米室内テニスと4月バルセロナ・オープンテニスに優勝し、5月にその年の目標の世界ランキング・トップ10入りしました。8月末からの全米オープンテニス（世界の4つの大きな大会＝グランドスラムの一つ）で準優勝し、日本テニスの歴史を大きく塗り替えて日本へ凱旋し、9月日本での楽天ジャパンオープンテニスで優勝し、続いてマレーシア・オープンテニスでも優勝しました。更に、10月テニスマスターズ・パリ大会でベスト4に入り、ランキングが5位に上がり、ATPツアー・ファイナルへの切符を手にしました。その大会では惜しくもベスト4となりました。

まさに今、錦織選手は「もうすぐグランドスラム優勝」です。

錦織圭選手の更なる活躍を松江・島根・日本の皆様及び世界のテニスファンは期待し応援し続けます。



## 「夢」あしたへ がんばれ!

玉湯ジャイアンツ野球スポーツ少年団

総監督 岡本 一良

**第**27回玉湯町体協杯少年野球大会（2014年11月2日）始球式のマウンドに、「<sup>さむらい</sup>侍ジャパン・日本代表」のユニホームを着た、<sup>しんぐう ゆい</sup>晴れやかな新宮有依選手（23歳）＝松江市玉湯町出身＝の勇姿があった。

現在、野球の日本代表は常設化され、少年野球から女子野球に至るまで、同じユニホームを着て世界の強豪と戦っている。新宮選手は、ワールドカップに3大会連続出場。今年9月に宮崎県で開催された第6回女子野球ワールドカップに主力メンバーとして出場し、日本の4連覇に大きく貢献した。

小学3年生から玉湯ジャイアンツ野球スポーツ少年団に入り、5年生からエースとして活躍。当時、コーチをしていた私は勝負よりも、玉湯ジャイアンツが目標に掲げる「勇気、元気、強気」の心構えとグラウンドでは「全力疾走の徹底」ということを、練習と試合を通して子どもたちに粘り強く呼びかけた。

新宮選手は、チームの目標達成に向け積極的に取り組み、投手としては「ピンチの時にこそ踏ん張り、打者を打ち取った瞬間は何よりもうれしかった」と話すほどの強気の投球、が光っていた。玉湯中学でも野球を続け、体力差を感じることもしばしばあったが、強い気持ちを持ち続け、鳥根県大会で女子選手としては初めて「エースナンバー・背番号1」を背負い、ベスト8進出の原動力となった。

少年野球大会の始球式後、「スポ少では野球の技量も大切ですが、スポーツ選手に必要な挨拶や礼儀も教えてもらった」と話してくれた。「そんな経験が県外の高校、大学ですごく生かされました」と振り返る。

「私は、さらなる目標に向かって走り続けます」と力強い決意。女子野球の知名度はまだまだ低いですが、女子野球を見た人たちに「喜びを超えた感動が与えられれば…」と夢をあしたへ紡ぐ。新宮選手、ひたむきな奮闘を願う。





松江体育協会 **90年の足跡**

大正13年5月から現在まで



## 大正13年

(1924年)

- 5.1 松江市体育協会発足  
 会長 高橋義比(市長)  
 副会長 古井善之助、高梨秀善  
 体協会章決定  
 常務理事園山重之考案による青色Mと赤色Aを組合せた「M」を採用、現在に至る。
- 5.25～5.26 第12回山陰オリンピック大会開催  
 津田晴一郎(松中)10哩出場

### [内外の動き]

- 1.26 今上天皇、皇后陛下御成婚  
 1.26 島根県体育協会創立

## 大正15年

(1926年)

### [内外の動き]

- 12.25 大正天皇崩御される。

## 昭和2年

(1927年)

- . - 大正天皇の崩御、諒闇のため山陰オリンピック大会中止。

### [内外の動き]

- 12.29 白濁大火、15mの西風で灘町、天神町、寺町、焼失236戸、12,800㎡を焼く。

## 昭和3年

(1928年)

- 6.9～10 末次埋立地最後の第15回全山陰陸上競技選手権大会(今回より名称変更)開催。
- 12.24 総合運動場の工事着工

### [内外の動き]

- 7.1 松江城山を城山公園と名づける。

## 昭和4年

(1929年)

- 9.20 昭和運動場竣工  
 総面積17,713坪、フィールド2,889坪、トラック400m×10m 1,163坪、外に200mの直線コース、その面積238坪、トラック外周道路3m617坪、メインスタンド土盛1,335坪(スタンド12段、田町更生会がつ

くり市は年賦償還)、観覧席平地(トラック周辺)1,836坪、附属地9,224坪、総工費55,949円。

### [内外の動き]

- 7.16 第1回松江水郷祭行わる。  
 8.20 第4代松江市長に石倉俊寛就任。  
 10.17 松江競馬場開場式(浜乃木)

## 昭和5年

(1930年)

- 12.12 昭和運動場を乙種競技場として日本陸連公認  
 12. - 忌部スキー場開場

### [内外の動き]

- 4.1 松江市営ガス開業

## 昭和6年

(1931年)

- 5.27 第1回体操祭が県下一斉に行われ、松江市では、昭和運動場に800名が参加。  
 9.19 島根県中等学校体育大会はじまる。

### [内外の動き]

- 5.16 東本町ほか6町大火、628戸焼失、焼跡の土で競技場の周りスタンドをつくる。

## 昭和7年

(1932年)

6. - 宍道湖一周継走大会(4区56km)を実施  
 昭和13年の7回まで続き、現在の駅伝競走のはじまり。  
 7.17 松江野球場竣工  
 面積5,150坪、内野27.27m、四方面積225坪、外野南北131m、東西平均90m、スタンド854坪。その他通路等、設置費34,500円。

### [内外の動き]

- 3.7 床几山にNHK松江放送局開局(JOTK)ラジオ体操が普及しだす。

## 昭和8年

(1933年)

### [内外の動き]

- 10.29 岸清一博士歿す。



## 昭和9年

(1934年)

5.26~27 松江体協創立10周年記念第21回全山陰陸上競技選手権大会(女子選手出場で賑う)

## [内外の動き]

4.30 松江市公会堂竣工  
11.10 新大橋2代目開通  
総工費36万円。

## 昭和11年

(1936年)

1.- 日本陸連の臨時総会において、山陰陸上競技協会(昭和9年創立)が正式に承認され、従来松江体協がもっていた山陰地方の代表権をこの協会に譲渡した。事務局は従来通り松江体協に置いた。

## 昭和12年

(1937年)

## [内外の動き]

4.14 中原大火252戸全焼。  
6.12 松江市役所を松江支庁に改称。  
10.18 松江大橋竣工

## 昭和13年

(1938年)

## [内外の動き]

8.18 県立松江高女全焼  
11.- 楽山公園松平家より松江市に寄贈。

## 昭和14年

(1939年)

10.31 岸運動場松江市に寄付さる。  
工事費凡そ2万円、勤労奉仕者延人員4千余名、昭和14年6月1日起工、同年10月31日完成。

## 昭和15年

(1940年)

4.20 岸運動場開場式(床几山)

## 昭和17年

(1942年)

4.8 日本国内のスポーツは、国民体育錬成の元締めとして、大日本体育会に統轄され、陸上競技連盟は陸上戦技部として体育会に所属し、松江体育協会は大日本体育会松江支部となる。

## 昭和19年

(1944年)

4.24 松江体育協会解散  
大日本体育会島根県支部の結成に伴い、松江体育協会も県支部につながる松江支部となる。

## 昭和20年

(1945年)

3.- 松江運動場軍管理工場用地となり、スタンドのこわし始まる。  
(走路圏は山根正元主事の手により壊さないよう守ったため戦後復興に役立った。)  
12.24 松江体育協会再建発起人大会  
白濁小学校音楽室に約40人のスポーツ愛好者が集まり開催

## 昭和21年

(1946年)

1.- 松江体育協会結成式  
1.- 松江体協結成と同時に松江運動場の再建期成同盟会をつくり、強力に復興運動を興す。

## 昭和24年

(1949年)

4.30 二の丸庭球コート2面完成(面積800坪)  
-. 椿谷コート2面をつくり、第1回中国五県バレーボール大会を開く。  
7.1 松江野球場大改修工事終る。  
戦時中スタンド全部取払い県のグライダー滑空練習場となり、球場として使用が出来なくなっていた。  
本塁中堅367呎、左右翼304呎、本塁バックネット間60呎、スタンド収容人員15,000人

## [内外の動き]

8.15 白濁大火  
11.8 仮市庁舎完工、公会堂旧に復す。



## 昭和25年

(1950年)

- 6.1 末次埋立地プールが老朽化したため代って白濁プール竣工。  
面積5,207㎡、長さ50m、巾20m、9コース、深さ1.2m～2m、収容人員500人の木造観覧席
- 10.- 樺谷コート拡張工事(バレーボールコート4面増)始まる。

### [内外の動き]

- 5.30 末次埋立地のプールを撤去し、跡地に松江競輪場を設置、第1回競輪を実施。

## 昭和26年

(1951年)

- 4.23 岸記念運動場改修工事
- 7.31 樺谷球技場改修工事完成  
バレーコート6面、周りに木製スタンド設置
- 6.- 城山武徳殿弓道射場を復旧建設

### [内外の動き]

- 3.1 松江市が国際文化観光都市の指定を受ける。

## 昭和27年

(1952年)

### [内外の動き]

- 11.1 松江市教育委員会発足  
教育長 金山 千

## 昭和28年

(1953年)

- 5.23～24 体協創立30周年記念第37回全山陰陸上競技大会開催

### [内外の動き]

- 2.- NHKテレビ 枕木山放送開始
- 9.29 松江競輪場撤去(末次公園)

## 昭和32年

(1957年)

- 9.11 総合運動場建設期成同盟会発足  
既設の運動場の改修整備を行い、第2の運動場建設を促進する。

## 昭和33年

(1958年)

- 7.10 松江市教育委員会に体育課新設  
課長 和田 正則
- 8.17 松江有料道路の完工を機に、全国規模の玉造毎日マラソンを創設。

## 昭和37年

(1962年)

- .- 白濁体育館建設工事着工  
鉄筋、鉄骨2階づくり 延200坪

### [内外の動き]

- 6.1 市庁舎竣工(教育委員会〔体協事務局同居〕も興雲閣から移転)  
市機構改革 出張所を廃止
- 10.25 市立白濁小学校改築竣工

## 昭和38年

(1963年)

- 1.27 松江市スポーツ少年団本部設置  
本部長 松江市教育長
- 5.18 松江市立体育館竣工(白濁小体育館)  
バスケットコート1面、バレーボールコート2面、バドミントンコート6面、柔道畳止枠 50畳2組、体操用具一式、2階正面固定席200脚(5段)、両側折たたみ椅子240脚、1階折たたみ椅子1,200脚 計1,640席

## 昭和39年

(1964年)

- 5.9～10 第48回全山陰陸上競技大会  
松江体協創立40周年にあたり23氏に感謝状贈呈
- 9.23 第18回東京オリンピック大会  
聖火歓迎第15回松江中学校陸上競技大会開催、競技場に聖火燃ゆ。聖火松江に2泊
- 9.30 岸 清一博士銅像復元除幕式  
国際オリンピック委員会会長ブランデー氏参列

### [内外の動き]

- 10.10～24 第18回東京オリンピック開幕  
金メダル受賞  
体 操 5 ボクシング 1  
レスリング 5 女子バレー 1  
柔 道 3 重量あげ 1



## 昭和40年

(1965年)

- 3.11 体協組織の改正  
従来の部制を廃し、種目別競技団体を独立加盟とする改革で、加盟団体24団体となる。
- 4.1 体育課を廃し、社会教育課に統合。  
課長 和田正則
- 5.21 岸記念賞をつくる  
岸博士銅像復元事業期成同盟会で募金の一部をもって岸記念賞(木の楯にブロンズ像をはめる)40個をつくり市体協へ15個交付され、市は加盟団体の推薦により表彰することとした。

## 昭和42年

(1967年)

- 史跡松江城環境整備事業により椿谷コートは廃止し公園となる。

## [内外の動き]

1. — 市立女子高西尾町に新校舎完工、移転

## 昭和43年

(1968年)

- 1.15 第1回体協新年賀会  
レークガーデンにおいて開催、以後恒例となる。
5. — 松江陸上競技場二種公認工事完工

## 昭和45年

(1970年)

- 8.26 体協改組委員会を開き、12月15日に新規約制定
12. — 史跡松江城整備事業により、二の丸テニスコート廃止にきまる。

## 昭和46年

(1971年)

- 2.2 新規約により理事長に和田正則就任。
5. — 日本陸連青木伴治理事長上乃木運動公園予定地を視察
- 8.20 市教育委員会事務局に体育課を復活

## [内外の動き]

- 2.3 豪雪

## 昭和47年

(1972年)

- 1.15 松江体協会報創刊号刊行

## [内外の動き]

- 7.1 宍道湖大橋開通(有料橋)
- 7.11 80年振りの大洪水

## 昭和48年

(1973年)

- 4.24 理事長に桂隆義就任、和田正則副会長に就任
- 5.18~19 体協創立50周年記念第57回全山陰陸上競技大会  
沢木啓祐、新谷誠規ほか10名の招待選手を迎え、盛大に開催  
50周年記念表彰として石倉俊寛ほか48氏故人福岡重徳ほか9氏を表彰
- 11.3 体協創立50周年記念事業として、松江郷土館に郷土のスポーツ人、顕彰展を行う。

## [内外の動き]

- 11.27 松江市総合体育館建設事業費募金委員会発足  
目標額 11億9千700万円(総事業費)

## 昭和49年

(1974年)

- 4.13 白濁小学校校庭に湖上ライオンズクラブの提供(資金250万円)を得て夜間照明施設完成し点灯式。
- 5.8 島根県第37回国民体育大会準備委員会設立
6. — 城山二の丸テニスコート撤去さる。
- 8.17~18 第1回松江・宝塚姉妹都市スポーツ少年団交歓会(松江市)
- 11.3~4 松江球場さようなら行事、市内中学校3試合、市内高校3試合、市体協加盟会員3試合、市議対体協OB戦を行うほか功労者表彰、お別れパーティーを開く。

## 昭和51年

(1976年)

- 3.6 楽山公園仮設野球場開き
- 4.3 松江市総合体育館開館
- 5.14~16 第60回記念全山陰陸上競技大会
- 11.6 松江市総合体育館2期工事として、屋内プール(温水プール)竣工
- 11.28 体育館竣工記念 モントリオールオリン



# 松江体育協会90年の足跡

ピック帰朝体操実演会

## [内外の動き]

4.1 財団法人松江市教育文化振興事業団発足

## 昭和52年

(1977年)

- 4.13 松江市地域体協連合会結成  
会長 角 吉郎(19地域)
- 10.10 さようなら陸上競技場、第12回松江市民  
体育祭を開催、競技場建設に功労のあつ  
た故高橋節雄氏、故石倉俊寛氏並びに松  
江体育協会に市長より感謝状と記念品を  
贈る。
- 12.21 総合体育館正面にあすなろ像建立除幕式  
を行う。  
ブロンズ像 日展入選作品を荒木文夫氏  
寄贈(体育館に保管)  
台座、台石 前畑勝太郎氏(前畑産業)

## 昭和53年

(1978年)

- 3.27 松江市議会において、松江市スポーツ都  
市宣言を制定。
- 3.30 松江総合運動公園市営陸上補助競技場竣工  
第3種公認陸上競技場に認定される。  
総面積 18,550㎡  
グラウンド15,180㎡、スタンド2,675㎡、  
その他695㎡  
トラック 400m6コース シンダー舗装  
140m8コース  
2コース 全天候  
フィールド 走高跳1、走巾跳2、三段跳2、  
棒高跳1、やり投1、円盤投1、  
ハンマー投1、サッカー1を  
設備。
- 工 費 9千2百万円
- 9.1 松江市総合運動公園市営野球場竣工  
敷地面積 24,400㎡  
構造 銀傘付鉄筋コンクリート造3階建  
(スタンド形式)  
規模 グラウンド両翼92m、中堅線120m、本  
塁後方23.5m  
面積 グラウンド13,830㎡  
(内野3,895㎡、外野9,935㎡)  
建物面積(メインスタンド)1,294  
㎡、スタンド敷地、内野、外野スタ  
ンド8,833㎡、その他443㎡  
収容人員 メインスタンド1,900人  
内野3,900人  
外野スタンド9,200人  
計 15,000人  
付帯施設 ダッグアウト2、本部、審判員  
室、選手控室2、電光掲示板、バッティング

ゲージ等完備。

- 9.22~24 市営補助競技場竣工記念第62回全山陰陸  
上競技大会開催
- 11.10 県体協活動募金4,505,000円を完納する。  
松江市総合体育館建設募金と合せて、体  
協関係で募金活動、3ヵ年間で募金完了。  
体育館分として松江市募金委員会に500  
万円を納入。

## [内外の動き]

- 10.15 松江市スポーツ都市宣言の公示式  
体育の日の市民体育祭において発表を計  
画していたが、当日及び予備の15日も雨  
のため実施できず、庁舎内で挙行、記念し  
て地域体協功労者20人を表彰する。  
(公布日は10月10日)

## 昭和54年

(1979年)

- 1.15 スポーツ人新年総会。  
1時30分からレークガーデンにおいて、  
360名のスポーツ人が参集総会を開く。  
宣言決議  
1. 松江体育協会の法人化  
2. 顕彰事業 陸上競技場、野球場跡記念  
碑建立、史誌編さん、島根国体を通じ、  
岸博士はじめ郷土出身有名スポーツ  
人の表彰。  
3. スポーツ施設の整備充実の促進。島根  
国体に向けて力強く第一歩をふみだ  
した。
- 4.10 財団法人松江体育協会設立発起人会並び  
に第1回評議員会を開催。  
(1)寄附行為の審議  
(2)役員を選任、専務理事の互選  
(3)法人設立への移行措置

## 昭和55年

(1980年)

- 5.30 松江市総合運動公園市営庭球場完工  
敷地面積8,400㎡  
構造 ハウス 鉄骨モルタル造り2階建  
100㎡  
コート 8面(4面宛、2施設) 5,520㎡  
練習コート、版面練習版つき  
420㎡  
スタンド 芝、一部コンクリート舗装  
2,260㎡  
付帯施設 クラブハウス(更衣室、トイ  
レ、シャワー、ロビー)

## [内外の動き]

- 7.15 和田専務退任、河原専務理事就任。  
10.10 第15回記念市民体育祭



## 昭和56年

(1981年)

- 3.2 体協事務室を庁舎別棟3Fに移転独立。  
3.31 松江市営陸上競技場竣工(メイン競技場)  
敷地面積 36,274㎡  
メインスタンド 鉄筋コンクリート造り  
1部3階  
種別 第1種公認陸上競技場  
面積 グランド 22,506㎡  
建物 3,140㎡  
芝スタンド 10,628㎡  
収容人員 24,000人  
メインスタンド 一般席5,000人  
芝スタンド 19,000人  
競技施設  
1周400m 8コース(直走路部分141m)  
その他附帯施設  
工費 10億5千万円  
5.1~3 くにびき国体主会場竣工記念第65回全山  
陰陸上競技大会。  
5.18 くにびき国体炬火リレー委員会結成  
5.28 場内レクリエーション委員会  
6.13~14 くにびき国体 陸上競技 リハーサル大  
会(メイン競技場)  
9.23 くにびき国体 1年前総決起大会(松江市  
実行委員会主催)に参加。  
10.10 松江市営陸上競技場竣工記念第16回松江  
市民体育大会を盛大に行う。

## [内外の動き]

- 4.1 B&G松江海洋センター開設  
敷地面積 19,651㎡、カッター、OPディン  
ギー、1.2Fヨット、体育館

## 昭和57年

(1982年)

- 1.15 天皇杯をめざした1,200名の総決起大会。  
松江市総合体育館の大体育室の四周を紅  
白で飾った会場に、“さあ天皇杯をめざし  
総力を結集して頑張ろう”のスローガン  
のもとに、特別来賓としての津田晴一郎、  
吉岡隆徳の先輩並びに斎藤名誉会長の激  
励を受け、競技種目団体代表の力強い決  
意表明、国体を必ず成功させようの宣言  
決議を採択、木原光知子講師から励まし  
の講演を聴き、くにびき国体を勝ち抜く  
ことを誓った。  
3.14 第1回健康ひろば(国体演技)の第1回練習  
会(市営陸上競技場)  
5.28 第37回くにびき国体松江市実行委員会  
発足  
7.4 松江市炬火リレーリハーサルの実施  
7.22 松江市炬火リレー採火式、休憩地(雑賀  
小、県民会館前)、引継式(鹿島町)リハー  
サル。

- 8.10 郷土スポーツ人顕彰展開催  
8.28 健康ひろばの第5回練習会に吉岡隆徳氏  
を迎え全員が揃っての練習会。  
9.12 岸博士墓前祭  
県立プールでの夏季国体開会式の閉式を  
待って、寺町久成寺において岸清一博士  
の墓前祭を行なう。  
日体協から山口国体委員長、深川事務局  
次長をはじめ、県体協、市議会議長、市教  
育長、本会会長以下多数参列、読経、焼香  
を行ない、道徳を偲ぶ。  
9.23 くにびき国体集団演技総合練習会(国体  
会場)  
9.26 第37回くにびき国体模擬国体  
9.27 第37回くにびき国体炬火リレー  
10.2 くにびき国体炬火集火式  
10.3~8 第37回国民体育大会(くにびき国体)開  
会式  
10.8 第37回国民体育大会閉会式  
10.8 くにびき国体優勝祝賀パレード  
10.16 第18回全国身体障害者スポーツ大会開  
会式  
10.17 第18回全国身体障害者スポーツ大会閉会  
式  
11.16 郷土スポーツ顕彰展開閉館。

## 昭和58年

(1983年)

- 1.15 鉄工会館において新年総会 参加325名  
3.20 第1回松江市地域スポーツ振興交換研修  
会を、松江市地域体協連合会と共催で実  
施。4分科会(参加105名)

## 昭和59年

(1984年)

- 3.18 松江市地域スポーツ振興交換研修会(青  
年センター)  
21地域体協より165名が参加し、5分科会  
に分れ各体協より実情発表、研究協議。  
4.27 創立60周年記念誌編纂委員会(第1回打  
合会)

## 昭和60年

(1985年)

- 1.15 松江体協創立60周年記念新年総会  
記念功労表彰(4名)、記念講演(津田晴一  
郎氏)  
3.30 南工場プール開館式  
4.4~5 松江体協事務局を総合体育館に移転。



## 昭和61年

(1986年)

- 1.15 松江体協新年総会特別講演(青田 昇氏)
- 7.27 松江陸上競技教室開校式

## 昭和62年

(1987年)

- 1.26 松江体協バドミントン講習会(総合体育館、婦人50名参加)

## 昭和63年

(1988年)

- 5.7 松江地区レスリング協会設立総会(むらくも会館)
- 7.29~30 松江体協サッカー講習会(乃木小学校)
- 8.20 第1回山陰レスリング大会(県立武道館)

## 平成元年

(1989年)

- 1.14 松江体協新年総会  
松江体協財団法人発足10周年記念特別表彰(14名)
- 8.18~26 全国中学校選抜体育大会(陸上、柔道、卓球)
- 9.10 第1回鳥根県スポーツレクリエーション祭
- 10.21 松江地区ウエイトリフティング協会設立総会
- 12.21 第1回評議員会において、新会長に石倉孝昭氏、前会長中村芳二郎氏を顧問に推挙。

## 平成2年

(1990年)

- 3.31 松江市北庭球場、松江市北運動広場竣工
- 4.30 松江スイミングスクール開校10周年記念式典(ホテル一畑)
- 9.22 ターゲットバードゴルフ協会設立総会
- 9.29 グランドゴルフ協会設立総会
- 11.17 第1回グランドゴルフ大会(松江北公園)
- 12.21 斎藤強賞創設

## 平成3年

(1991年)

- 1.15 松江体協新年総会特別講演(柴田 勲氏)
- 2.17 第1回松江ウエイトリフティング競技大会(松江西高校)
- 2.27 南工場プール管理棟竣工式。
- 5.12 第1回松江市ベタング大会(市北運動広場)

## 平成4年

(1992年)

- 1.15 第1回斎藤強賞表彰。
- 4.1 松江市スポーツ振興基金創設。
- 7.23~25 全国少年レスリング大会(市総合体育館)
- 10.17~20 第5回全国スポーツレクリエーション祭
- 10.18 松江市民スポレクデー(市総合運動公園他)
- 11.19 スポーツ健康大学創設準備委員会(市生涯学習センター)

## 平成5年

(1993年)

- 3.28 松江体協事務局を市生涯学習センターに移転
- 4.1 松江スポーツ健康大学創設
- 8.1 くまびきメッセ竣工記念早慶レガッタ(松江大橋川)
- 8.27 松江市生涯スポーツ推進協議会設立総会(ホテル白鳥)
- 12.17 評議員会において、新会長に宮岡寿雄氏、前会長石倉孝昭氏を顧問に推挙。

## 平成6年

(1994年)

- 4.13 松江体協創立70周年記念事業実行委員会(県婦人会館)
- 8.1 松江体協創立70周年記念事業協議会(事務局)

## 平成7年

(1995年)

- 1.16 松江体協創立70周年記念新年総会



(ホテル一畑)  
70周年記念特別表彰(2名)、記念表彰  
(4名)、記念講演(生沼スミエ氏・横溝  
三郎氏)

- 2.7 松江体協創立70周年特別事業打合せ  
会(事務局)
- 7.31~8.6 全国高校総合体育大会(バドミント  
ン、バレーボール男子)
- 9.4 松江体育協会が、日本陸上競技連盟  
70周年特別表彰式において普及功労  
表彰(東京)

## 平成8年 (1996年)

- 4.9 松江体協事務局を市役所に移転。

## 平成9年 (1997年)

- 6.7 第80回全山陰陸上競技大会記念式典。

## 平成10年 (1998年)

- 4.1 (財)松江体育協会業務を、(財)松江市教  
育文化振興事業団へ移管。
- 4.7 松江体協事務局を市総合体育館に  
移転。

## 平成11年 (1999年)

- 4.27 道の駅秋鹿なぎさ公園竣工
- 7.20 北公園ミニ遊園地開園
- 10.10 松江市制施行110周年記念第27回市  
民体育祭。

## 平成12年 (2000年)

- 9.28 評議員会において、新会長に松浦正  
敬氏を推挙。

## 平成13年 (2001年)

- 8.17~20 全国中学校バスケットボール大会  
(市総合体育館他)松江市立湖東中学  
校(男子)が初優勝。

## 平成14年 (2002年)

- 4.1 (財)松江体育協会情報公開規則・文書  
取扱規則の制定。

## 平成15年 (2003年)

- 6.25 松江体協創立80周年記念事業検討委  
員会(市総合体育館)

## 平成16年 (2004年)

- 8.1~20 全国高校総合体育大会(バスケット  
ボール、卓球、ソフトテニス、水泳)
- 8.4~10.11 松江体協創立80周年および全国高校  
総合体育大会開催記念「伝統と栄光  
のスポーツ展」(松江郷土館)
- 10.17 松江体協創立80周年記念「まつえ  
サッカーフェスタ2004」(講師・松木  
安太郎氏)
- 12.10 松江体協創立80周年記念誌「20年の  
あゆみ」発刊

## 平成17年 (2005年)

- 1.16 松江体育協会創立80周年記念総会。  
記念表彰(10名)記念講演(中京大学  
教授・室伏重信氏)
- 2.16 松江体育協会創立80周年記念事業検  
討委員会開催。
- 3.9 南工場プール担当理事会開催。
- 3.31 松江市、八東郡7町村と合併。

## 平成18年 (2006年)

- 1.14 松江体育協会新年総会。松江テニ  
ス協会 錦織 圭選手 特別功労賞  
受賞
- 7.26~8.25 スポーツ教室事業実施「夏休み小学  
生バスケットボール教室(54名)10回  
実施」
- 8.1 情報提供事業実施「ホームページ開  
設」松江体協に関する情報発信を  
開始。
- 10.8 新松江市合併記念市民体育祭種目  
別対抗リレーに加盟団体12チーム  
参加。



## 平成19年

(2007年)

- 7.23～8.17 夏休み小学生スポーツ教室実施(10回・20名)
- 11.26～12.3 実践スポーツトレーナー講習実施。(計3回)

## 平成20年

(2008年)

- 3.5 総務企画委員会開催。錦織圭選手の活躍の対応について協議した。
- 3.14～4.14 錦織圭選手を応援する懸垂幕を松江市庁舎正面玄関前に設置。設置セレモニー実施。
- 7.22～8.11 夏休み子どもスポーツ教室実施(10回・26名)
- 11.25～28 実践スポーツトレーナー講習実施(計3回)

## 平成21年

(2009年)

- 1.19 役員会開催。宣言決議について協議。
- 7.24～8.7 夏休み子どもスポーツ教室実施(10回・22名)
- 11.24～30 実践スポーツトレーナー講習実施(計3回)

## 平成22年

(2010年)

- 7.20～8.4 夏休み子どもスポーツ教室(10回・16名)
- 8.19～22 全国中学校柔道大会(松江市総合体育館)
- 9.13 松江体協事務局を市役所に移転。
- 9.24 松江法務局へ変更登記申請書を提出。
- 11.22・25・29 実践スポーツトレーナー講習開催(計3回)

## 平成23年

(2011年)

- 6.1 新年総会に関するアンケート調査実施。
- 8.1 松江市、八東郡東出雲町と合併。
- 10.2 松江開府400年博覧会「特別巡回ラジオ体操・みんなの体操会」(松江北公園)
- 11.10 中央講師招聘事業「転倒防止のコツ伝授講習会」開催。

- 11.21～28 実践スポーツトレーナー講習開催(計3回)

## 平成24年

(2012年)

- 7.13～15 浙江国際伝統武術大会派遣事業(中国)松江太極拳協会
- 9.10 2020年オリンピック・パラリンピック競技大会東京招致に向けた支援決議
- 10.17～11.14 実践スポーツトレーナー講習会実施(計5回)

## 平成25年

(2013年)

- 1.4 浦和レッズ所属藤田のぞみ選手(サッカー)市長表敬
- 3.17～10.14 サポートチーム派遣事業実施(計6回)
- 3.21 公益財団法人設立認可。
- 3.29 市教育委員会主催「スポーツ指導者研修会」講師:眞藤邦彦氏(日本サッカー協会)
- 4.1 公益財団法人登記
- 4.4 姉妹都市にかかる二市体育協会の交流会(尾道市体育協会・松江体育協会)
- 5.27 松江体協事務所移転。(市第四別館から市第三別館)
- 7.26 総務企画委員会開催。体協創立90周年記念事業について、90周年記念ポロシャツの作成について。
- 9.11 90周年記念事業準備委員会開催。

## 平成26年

(2014年)

- 創立90周年記念実行委員会開催(5月～3月計5回)
- 3.15～7.27 サポートチーム派遣事業実施(計5回)
- 9.9 錦織圭選手全米オープンテニス準優勝。
- 11.5 松江市スポーツ指導者講習会「スポーツ指導者のための倫理ガイドライン」開催  
講師 岡達生氏 (公財)日本体育協会 スポーツ指導者育成部長





# 歴史を振り返る

貴重な寄稿文を再掲載しています

※役職については寄稿当時の役職を  
そのまま記載しています。



# 松江体育協会の歩み

元松江市社会教育課長

和田 正則

ア クロポリスの丘の上に立った古代ギリシャ人が、立ちのぼる太陽を、力と美の神なるアポロとして祈り、永遠の美を誇るゼウスの神殿を造営したことは、古代宗教史から見ても、極めて自然の現象である。古代ギリシャ人の若人たちは、この神殿の前で、力と美と業を競い神に捧げたのである。

古い歴史と輝く伝統をもつ全山陰陸上競技大会の前身である青年陸上大運動会が天神裏で呱呱の声をあげたのは、大正二年十月市当局の指導により、松江市内各町の青年会を統合しての松江市連合青年会が組織され、同会主催の下に、大正天皇御即位を寿ぐため十月三十一日初の天長節をトとして開催されたのに始まる。

大正三年の第二回大運動会は城山二の丸で行われたが、二千米競争に杵築中学四年生（現在の大社高校）の得能末吉選手が優勝、翌年再び優勝したのでこれをその年東京戸山学校で行われた第三回全国陸上競技大会（現在の日本選手権）の五千米に出場させてみたところ、見事優勝して帰郷したことは地方の人々を大いに驚かし陸上競技熱が急激に高まる動機ともなったのである。

大正五年の第四回大会から会場を末次埋立地に移して行われ、大会の名称もそれまでの大運動会からいち早く山陰オリンピック大会と改め、若人の血を一層沸きたたせたのであったが、日本が末だ明治から大正へと大きな転換期にあったとき、全国に先がけて山陰の一角松江市でこの様な爆発的な競技会が開かれたことは、山陰陸上競技会に飛躍的な発展をもたらすことになったのである。

創設当時は今のような立派な設備のグラウンドがあるわけでもなく、場内は羽織袴の役員が右往左往し、選手の格構は足袋はだしなどで黒帯を締めたりしており、また応援団は各町内ごとに繰出し、市民の熱の入れ方は、今日では想像も及ばない程熱狂的なものであったが、第四回大会から会期は二日間になり全山陰から青年および中学校の選手が参加するようになり年と共に盛大の度を加えるに至った。

その後近代スポーツに目覚めた若き青年たちによって大正十三年五月一日新しいスポーツ団体即ち松江体育協会が結成されこの年から山陰オリンピック大会の主権は青年会から体協の手に還ったのであるが、その年日本陸上競技界でも改革をめざし日本陸上競技連合創立の動きが高まるや、山陰からは松江体育協会の鳥谷掌三氏が結成準備委員として中央から指名され、かくして十四年日本陸上競技連盟の誕生と共に山陰地域統轄の代表団体として加盟して重要な役割をつとめたが相次いでオリンピックに郷土出身者が加わり活躍するに及んで、発言権は大きくなり、日本陸上競技連盟の有力団体として重きをなすに至った。

松江体育協会の結成は全国でも東京、大阪、名古屋、広島などに次ぐ古いもので、体協幹部の卓越した見識及び実行力は大きく評価されるべきものである。



松江体育協会がこの様にして中央スポーツ界と強いつながりを持ったことから常にスポーツ界の新しい動向が市当局にも伝えられ、松江市は高橋節雄市長時代に総合運動場の建設計画を定め、市の東郊法吉村（飛地）の田を買収して陸上競技場の建設に着手したのは、昭和三年のことである。

昭和運動場（現在の松江陸上競技場）が完成したのは、昭和四年九月二十日であり、毎年五月に開催してきた全山陰陸上競技選手権大会をこの年は開場式に併せて華々しく開催し、テープに鋏を入れたのは新市長石倉俊寛氏であった。そして翌五年に公認競技場となり、これに隣接して昭和七年七月七日現在の松江野球場の竣工をみ、開場記念に全大阪対全神戸の都市対抗野球戦が行われ、かくして山陰に冠たるスポーツの殿堂が出現するに至った。

この総合運動場は中国地方に比べるものがない堂々たる施設であったことを思うとき、当時の関係者の功績は大いに贅えられてもよいものである。

松江体育協会の会長には歴代の市長が推される習わしになっていたが、石倉市長（会長）就任の昭和五年中央スポーツ界との交渉事務が頻繁になったのを理由とする体協側の要請が入れられて事務局は北殿町山口権六氏宅から市社会課に移され、初代書記に体育係和田正則氏が委嘱され、以来代々の体育係がこれを受け継ぐことになり今日に至っている。

施設の面では末次埋立地に島根県体育協会の五十米プールが岸清一博士の寄付と学生の勤労奉仕などによって昭和三年完成し、市営の軟式テニスコートが、今の島根神社の建っている上御殿跡に、四面の敷地に第一期の二面が完成また屋根付き立派な相撲場も城山入口の勢留りに出来上がるなど、日華事変が始まるまでは地方のスポーツ熱も上昇の一途をたどり頗る活発な展開ぶりを示したが、松江体育協会は組織として競技種目別の部制をもうけ、陸上競技のみならず水泳、庭球、卓球などにも山陰選手権大会を創始したほか、大正末期から昭和の始にかけて未開発の大山スキー場を舞台に地方スキー界の草分けとして開拓につとめ、今日の隆盛に貢献した人々のあることも忘れてならないことである。

終戦を迎えるや市の体育主事、山根正元氏は、戦時中は県のグライダー訓練に転用され後には工場建築資材が乱雑に集積されていた陸上競技場を急ぎ取片づけて僅か三ヶ月後の十一月に前後復興体育大会を全県下に呼びかけて開催し大成功を収めたが、これも恐らく全国に類を見ない快挙と言ってよいであろう。伝統ある松江体協の基礎があったからこそで陸上競技場と野球場のスタンドを取りはらって一面の広野として県がグライダー訓練に使っていたのをその後再びスタンドを築造し直し陸上と野球が出来るようにするのは大仕事だったが、松江市は失業対策事業としてこれを整備する一方、島根県体育協会が戦時中に荒廃し、もてあましていた末次プールをもらいうけて同様に整備し、また城山に現在の椿谷コートとテニスコートを新設したが末次プールは、後に市が末次埋立地に競輪場を設けることになり、プールが邪魔になるとして壊すことで問題になったが白濁公園に代替施設を設けて一応おさまりをつけた。（しかし、設計その他まことにお粗末で4.5年たつと漏水がひどく使い物にならなくなり放置して再建をはかったが、湖岸道路の拡巾などの関係から現位置ではこのましくないなどの理由で、市で取壊されてしまい市民プール建設は将来の問題として残されている。）

こうした苦難の中にあって、スポーツ団体の組織づくりは松江体育協会が中心となって、昭和21年5月に島根県体育協会を設立し、県庁と松江市役所の双方の体育系でもって全県種目別連盟の事務局を半分ずつ受け持ち、全県的な行事を遂行したもので、現在中国五県で会場廻り持ちで行われている各種目別中国五県対抗競技大会も上記の体勢の下で本県が広島、岡山、山口、鳥取各県に呼びかけて、実現させたのがきっかけである。21年第1回五県バスケットボール大会、22年第1回五県陸上競技大会をそれぞれ松江市で開催して、当時は競技成績に於いても他県を凌ぐものがあったが、こうした面からも松江体育協会が戦後の地方スポーツ界復興の推進力となり、スポーツ普及のために果たした役割は大きく評価されてよいであろう。

戦後、国民体育大会が国民のスポーツ祭典として我が国スポーツ界の発展に大きな力となっていることは疑う余地もないが、これを開催した県は国体を踏台として飛躍的な県勢の発展をみており、中国五県の中でも26年広島、37年岡山、38年山口が立派に国体開催の責を果たして以来、山陰スポーツ界の遅れが余りにも目立ってきつつある。国体の島根県誘致は果たして何時のことであろうか。

現在ではスポーツ団体の機構も行政区域単位に規定されたので、中央に対してはすべて県単位であり、戦前のような山陰地域代表団体としての役割も必要なくなり、県内においても松江市と肩をならして市町村に体協が組織されるようになったので、松江体育協会としての今後は市民体育の振興、スポーツ人口の増加をはかり、明るく健康な松江市と町づくりと人づくりへの役割が大きくなってきたと云えよう。

しかし、県都としての使命、役割はおのずから他市と異なるのは当然のこと、平常時の県スポーツ界のリーダーシップをとるのは、やはり松江体育協会の役目であろうし、わけても将来国体誘致となれば当然中心会場とならねばならない松江市が百般に亘って準備しなければならないものについては打つべき手は打たなければならない。これは今後の松江体育協会にとって大きな課題である。

松江体育協会の現在機構は40年3月発展的な大改造によってできたもので創立以来受けつがれてきた部制を廃して、種目別連盟を独立させ、これが21種目となり、更に松江市小学校体育連盟、松江市中学校体育連盟、教職員体育連盟を加えて、24団体を加盟団体とする統轄団体となったものである。なお会則の示すところでは小学校校区別体育協会も加盟できることになっており、各公民館単位の体協づくりも着々とすすんでいるもので、43年度の加盟団体は合わせて30を越す大規模なものとなるので大同団結しての活動が大いに期待されるところである。

松江体育協会の活動を通じ会員が各方面から表彰を受けた数は夥しいものがあるが、国民体育大会開催式で行われる社会体育優良団体表彰では昭和29年松江体育協会が選ばれ札幌主催会場に於いて、金山千副会長（市教育長）に表彰状が授与されたが、昭和41年で第50回を迎えた全山陰陸上競技大会開会式に際し、日本陸上競技連盟から表彰状が本会の副会長であり、島根県体育協会の会長である秋本盛一氏に授与され、これ又松江体育協会の多年に亘る努力と功績が認められたもので、この榮譽のかけには協会役員として選手として陸上競技に青春を打ちこんだ人々の限りない情熱と、これを声援し育ててきた松江市民たちの愛情があり、そして、深い理解の下に惜しみない援助を与えてきた松江市当局のことも忘れてはならないであろう。



## スポーツ都市宣言

～体力づくりで活力ある町に市民総スポーツ都市宣言発表並びに表彰式～

松江市は10月15日、スポーツ都市宣言の式典を挙行了。最初の計画では10月10日（体育の日）を選び、市民体育祭の開会式に併せ行う手筈がきめられていた。ところが雨で大会は15日に延期されたものの残念なことに再度の雨で市民体育祭は中止。そこで都市宣言の式典だけが切り離して行われたのだった。

式場には市庁舎常任委員会室が充てられたが狭いため、やむなく人員を制限されたにもかかわらず、雨について参列した市議員、体協関係者等は150名に達し廊下にはみだすありさま。

午前10時、永江体育課長が開会を告げ、内田教育長が経過報告の中で、松江体協は、かねてから市民総スポーツを真剣に考え、これに取り組んできたが、これを実現するためには行政の立場から市がスポーツ都市宣言を行うべきだと提言する一方、世論の喚起と基盤づくりのため地域体協の組織づくりを呼びかけるなどの推進活動を続けてきた。そして愈々機が熟し53年3月10日、会長名文書をもって市長、市議会、市教育長のそれぞれに要請の陳情を行った。一方市教委でも、これに対応すべく先進地の調査を行い参考資料をもとに、宣言文案、活動方針、宣言の時期など諸々の検討をすすめていた。

この時、市議会も6月議会で陳情を採択したことにより大きく前進、市の法令審査会の審議を経て宣言の位置づけもきまり、愈々日の目を見ることになった云々と経過を述べ、続いて中村市長が登壇、松江市は、かねてからスポーツを奨励し健康で明るい町づくりに努めてきたが、57年島根国体の成功と山陰の雄都として限りなき発展をねがう上から、市是として市民総スポーツに取り組んでいくため、スポーツ都市宣言するとの固い決意を披歴しての挨拶の後、力強く、スポーツ都市宣言文を朗読、参会者からの盛んな拍手は、しばし鳴りもやまなかった。

こうして、画期的な宣言が終るとこの日を記念するにふさわしい表彰が行われた。13回に亘る毎年の市民体育祭をはじめ各種の市行事に参加協力してきた島根県警察音楽隊と全市20地域体育協会の創立並びに育成につくしてきた20名の功労者に対し、市長から表彰状と受彰楯が贈られ、平垣貞徳氏（大庭）が表彰者を代表して謝辞を述べた。

次いで市民体育祭の表彰規定が本年度から改正されたことに基く第一部球技（卓球・バレー・ソフト）の総合成績による大規模・小規模別の表彰が行われた。

大規模①津田 ②乃木 ③法吉 小規模①城北 ②白潟 ③持田

更に特別表彰として前回までの混成継走に持ち廻り授与されてきた、佐野広氏寄贈の優勝旗は50～52の3年連続優勝の大庭に永久授与された。

表彰を終り、来賓を代表して小立市議会議長の祝辞があり地域体協連合会角会長の音頭で万才の三唱を最後に、記念すべきスポーツ都市宣言並びに表彰式は終了した。

## 財団法人化の実現とその経過

松江体協加盟団体が年々増加するのと併せ、市体育行政に対する協力依頼も年々ふえつつあり、これに対処するためには、どうしても事務局をはじめ役員と組織力の強化は、ほっておけない重要課題となってきた。そこで昨年の賀会の宣言決議で、第1に取り上げたのが協会の法人化であった。賀会が終るや早速このことに取り組んだのであったが、法人設立には基本財産を必要とすることは承知していたものの、許可する立場の県教委に伺ってみてはじめて明らかにされたことは、近年の例から我々が予想していたのに反してあまりにも高額を示されたことに驚き先行き不安を思わせるものがあった。そうした中で、2月6日、佐藤・和田両副会長、桂理事長等を中心に法人化の規約案を作製、2月26日佐藤・和田・永江等で県教委総務課原田課長補佐に面談。松江体協の歴史と現在の活動状況等を説明し、法人化の必要性と基本財産の額について理解を求めた。

その後、基本金の額は中村会長からも直接県へ話をしてもらって漸く500万円に落つた。

3月14日、寄附行為案を県に提出の上指導を受け、3月26日常務理事会と理事会の議を経る一方、基本金の500万円については、市より全額を会に寄附をうけることがきまり、以後諸手続きを了し、6月20日正式申請書を県に提出、7月2日付（1日が日曜日に当たったため）財団法人松江体育協会設立を許可するとの文書が7月11日に協会事務局に届いた次第である。

なお役員は理事25人、代表理事会長には中村市長が就任。事務局員は1人増員して、常任専務理事のほか事務員2名に強化され、今後市スポーツ界の付託にこたえ、これまでの伝統を大切にしながらも新しい時代に即した活動を展開していくことになった。



# 松江体育協会には「市」がないこと

元理事長 桂 隆義

**松** 江体育協会には「市」の文字がない、即ち松江市体育協会ではない。このことに気づかない人もあると思うが、それは次の事情によるものであるということ先輩から聞き及んでいる。

そもそも松江体育協会の沿革は遠く大正2年（1913）にさかのぼる。

大正天皇初の天長節（天皇誕生日）を寿ぎ開催された陸上大運動会の主催者となった松江市連合青年会が、その前進であり、以来この連合青年会は地方体育の振興に努め、陣容を拡充強化しつつ大正13年（1924）松江体育協会の設立となったものである。

その後、大正14年（1925）には東京に日本陸上競技連盟が創立され、松江体協はその歴史的活躍の実績から山陰地方の統轄団体として、山陰地域の大会開催と全国大会への出場選手銜衡機関として認められたこともあり、このことから実質的には山陰体育協会として活躍をして来たものである。

時は流れて五十余年、昭和53年末頃より今後の活躍に備えて、体協法人化の構想が生まれその具体策について検討が行なわれ、たまたま、寄付行為の草案作成にあたり、寄付行為の目的条項を定めるとき、松江体協の沿革を盛り込みその対象は単に松江市及び松江市民のみに限定されたものでないことを明示すべきこととなり、第3条は次の如く作成された。

即ち、（承前）大正13年5月1日設立された松江体育協会の伝統と業績を継承し、広く体育・スポーツの振興に関する事業を行い、もって住民の泰直の向上に寄与することになった。従って（財）松江体育協会も松江市の体育・スポーツ振興と市民の体力の向上に寄与するばかりでなく、広く県内外にその活動の場をもつことになったために「市」の文字が除かれたのである。

# 松江体協財団法人発足十周年に寄せて

元理事 吉野 安久

**松**江体協創立60余年の大きな節目としての財団法人設立10周年を迎えて心から喜ばしい、本協会は創立以来国際的な選手を輩出し充実した実績の上に昭和54.7.2に財団法人となり組織運営の適切による輝かしい活動がついに第37回国民体育大会を松江運動公園陸上競技場を主会場として実施し総合優勝を果たしたことである。

大正13年松江体協創立する

山陰の一角の松江市が全国に先がけて大運動会を開き、国際的選手を数多く出した。大正13年に新しいスポーツ団体として松江体育協会が発足し、全山陰オリンピック大会を主催した。この頃から戦時一色になったが、スピードのマラソン津田選手、暁の超特急吉岡選手など多くの優秀選手を輩出した。

終戦 昭和20年

松江体協の戦前の実績の上に強力に復興に燃え荒廃した競技場もスポーツ愛好の市民によって復興し、昭和20.11.10全国に先がけて、戦後復興大会を開催。日本のスポーツ再建への意欲満々たるものがあつた。

復興大会は陸上競技、市内国民学校児童の集団体操、市内中等学校、県女、市女の集団体操、行進遊技など一段と意気盛んな大会となった。

続く21年新生松江体協の結成、宍道湖一周駅伝、30回全山陰オリンピック11月には食糧をもつての第1回京都国体に出場、曾田の200m優勝、佐藤の10種3位などが活躍をした。

昭和47年 松江体協会報創刊号発行

昭和53年3.27 松江市スポーツ都市宣言

昭和54年7.2 松江体育協会財団法人設立

新しい陣容組織機構をもってスタート、財団法人松江体育協会の発展と躍進が期待された。

昭和57年 国民体育大会総合優勝

昭和57.1.15 天皇杯をめざして1,200名の松江市民による総決起大会を総合体育館で開く。

昭和57.9.12 岸清一博士墓前祭、郷土スポーツ人顕彰展の実施。

昭和57年10.3 第37回国民体育大会（くにびき国体）全県下で開く



天皇陛下をお迎えしての開会式、秋晴れのもと朝7:40郷土紹介として、まつりの広場第1陣は県下芸能保存会の600人の郷土芸能、ボニージャックスのくにびき国体愛唱歌の指導松江体協出演の健康ひろば。特に少年とともに走る暁の超特急吉岡隆徳氏の赤一色鬘鑠たる姿、サッカースクール、親子ボール遊び、県下婦人2,000人による風土記の世界、高校生のバラードで幕、続いて天皇陛下御座所におつきになって歴史的な開会式がくにびき賛歌のうちに開催された。

昭和57.10.3～8 競技はじまる

昭和57年10月9日の新聞

喜びの天皇杯

みせたぞ！鳥根の底力 282.5点 東京に大差

天皇杯得点

- |        |         |
|--------|---------|
| 1.鳥根県  | 282.5点  |
| 2.東京都  | 219.21点 |
| 3.大阪府  | 164.25点 |
| 4.群馬県  | 163.71点 |
| 5.神奈川県 | 156.71点 |

皇后杯得点

- |        |         |
|--------|---------|
| 1.鳥根県  | 133.57点 |
| 2.東京都  | 118.37点 |
| 3.大阪府  | 106.5点  |
| 4.群馬県  | 103.87点 |
| 5.神奈川県 | 86.37点  |

財団法人松江体育協会に栄光あれ

私たち市民の体協が結成されて60余年、当時の黎明期に多くの国際的選手を輩出し、戦後はいち早く復興大会をもち、スポーツ都市宣言をし、財団法人として充実した基礎の上に立って、昭和57年国民体育大会に優勝の大きな成果をあげた、松江市民の総力が松江体協財団法人設立10周年を期して21世紀への発展と栄光を祈ろう。(当時総務委員長)

# 新しい市民体育祭を目指して

松江市教育委員会 体育課

**昭**和41年に「体育の日」が制定されたのに伴い、松江市は「市民一万人参加」を目指しての市民体育祭をスタートいたしました。また、本市は、スポーツを愛し、スポーツをとおして健康な心とからだづくりを指標とし、明るく豊かな松江市を築くために、昭和53年10月に「スポーツ都市宣言」をいたしました。以来、松江体育協会を核としながら、体育指導委員・地域体育協会・各公民館・種目連盟の方々の献身的なお力添えにより、市民体育祭も年々盛り上がりを見せてきたところですが、近年、余暇時間の増大、潤いある生活への欲求や健康への関心の高まりにより、スポーツ・レクリエーション活動の重要性が見直され、その活動が次第に活発化してまいりました。市民一人ひとりが生涯にわたって、それぞれの体力や年齢に応じて、適切なスポーツレクリエーション活動をすることの必要性も増してきました。

ここに、25年の歴史と輝かしい伝統を築きあげた市民体育祭も、今、新しい方向付けの時期をむかえたと考えられます。現在の市民体育祭は、一部の種目を除いては、参加選手が固定化の傾向にあり、毎年同じ人が参加している状況にあります。市民総スポーツを追求する立場からは、好ましい姿ではない。所謂、現状と合わないという声も出はじめ、抜本的な見直しを迫られてまいりました。

そこで、市民の声を多く聴取しながら、体育指導委員・地域体育協会・種目連盟・松江市スポーツ振興審議会等の各組織、関係諸団体の方々に度々のご参集をいただき、これについての意見や検討する機会をもってまいったところです。そこで、ご協議いただいたこととして、基本的な考え方としては、まず「市民総スポーツ」「生涯体育・スポーツ」を追求する姿勢が大切であり、市民総動員できることが理想であり、その実現に向かって努力しなければならない。そのためには、いつでも・どこでも・誰でもできるスポーツを目指し、その普及に力を入れるべきだとのことご提言もありました。このことは、今、関心の高まりつつある、ニュースポーツの普及ということになるのではないかと考えられます。

従って、これまでの市民体育祭の主旨を尊重しながら、また、市民の声を基調にし、今後の目指す方向付けをしなければなりません。その方向付けとして、先ず、この度は以下に記しますようなこととしました。市民の皆さん・関係諸団体のご理解、ご協力を得ながら、市民総参加のスポーツ・レクリエーション活動を志向していかねばならないと思います。



### 市民体育祭の新しい方向（構想）

#### ○ニュースポーツ・レクリエーションの部

ニュースポーツについては、研修会・練習会等を開き普及に努める。

・ペタンク、オリエンテーリング 5月同日開催

・グランドゴルフ、ターゲットボードゴルフ、健康ウォーク 8月同日開催

・綱引き 2月開催

○1部種目 卓球・ゲートボールは、大小規模地区に関係なく行い、ソフトボール・バレーボールは、大小規模別に地区対抗とするが、得点はつけない。

○2部 陸上大会は、4年1回開催することとし、競技内容等については、検討する。

毎年10月10日には全地区一斉に町民体育祭を開催し、市民総スポーツの気運を高め、雰囲気づくりを試みる。

○3部種目 市民駅伝競走大会（11月3日）は、残し行うが、参加は自由とする。

昭和60年1月15日  
松江体協60年誌より

## オリンピック大会と国防競技

大正13年県女学校オリンピック大会が今市高女で10月10日に開催。山陰オリンピック大会の全盛時代で、どんな田舎の大会でもオリンピック大会の名をつけた。県女学校オリンピック大会が昭和2年女子中学校オリンピック大会となった。この大会も、昭和15年には総合体育大会となり、基礎体力の錬成、国防競技、体力検定、重量運搬りレーなど鉢巻にモンペ姿になった。昭和17年にこの全国大会も7月神宮外苑で最後のものとなった。

## 松江体育協会七十年の回顧

# 「松江体育協会と吉岡隆徳選手」

参与 金山 千

大正の初め、松江青年の清純な情熱によって発足した青年大運動会が、松江体育協会として、新しく組織化され、活動を展開したのは、既に70年の昔であり、わが国スポーツの黎明の烽ともなったとは、今更ながら、その気宇の雄大さと共に、逞しい実行力に驚嘆するのである。まことに関係者こそは、永遠に遺る偉業を飾られたのである。

松江体育協会の中心的事業は、陸上競技大会の開催であったが、その大会も、山陰オリンピック大会と銘打ったのであり、その強い意気を感じるのであった。

若人たちは、この山陰オリンピック出場を目標に、或いは、これを登竜門に、と、精進するのであり、県内はもとより、広く鳥取県・山口県からも馳せ参ずるのであった。

体育協会も、その競技場の整備には、殊の外腐心するのであったが、末次埋立地が会場の頃には、大会開催が近づくと、馬に整地器を曳かせて、荒地に競技場が造られるのであった。

昭和四年には、西川津町に第二種公認の昭和グラウンド（現在の体育館のある場所）が新設されたのであった。この競技場は中国地方最初の二種公認の陸上競技場であった。

全山陰陸上競技大会は、その完備された優れた施設と共に、その運営もまたスポーツ精神に則る整然とした組織づくりもなされ、極めて厳正に実施せられるのであった。

大正の終り頃から昭和の初め頃の、この大会の賞状など関係書類を出して見ると、大会長は、松江体育協会会長である松江市長が当られ、市長の位階勲等も認められているのである、又総裁として、島根県知事を推戴され、総裁も位階勲等が認められているのである。又、審判長には、海軍主計大佐正五位勲三等功五級 中川保などである。その真剣且つ厳粛な、更には弥益す權威の姿勢を感じるのである。

昭和4年の大会の事であるが、200メートル競走において、吉岡隆徳選手は「予選であるから」と、流して走ったのであった。これを見て居られた石倉俊寛会長は「吉岡のあの走り方は何だ、有名な吉岡の走り方か、大会の權威にかかわる、やり直させ」と、激怒されたのであった。

当時の吉岡は、島根師範の学生であったが、日本代表選手として極東選手権大会（現在のアジア大会）に出場し、輝かしい成績を上げていたのだった。

吉岡は、大会長の指示に従って、やり直しの200メートルを一人で走った、今度は懸命に走ったのであった。

吉岡は70歳を過ぎてからであるが「わが人生一直線」と題して、自らのスポーツ人



生を書いた著書を出版したのであった。

その中に、昭和4年第16回全山陰陸上競技大会での事を、[忘れられない事]として、次のように書いているのである。

[200メートルは、出場者が少なく、予選は最下位でも通過出来るはずだった、そこで私は、軽く流して走った、それが大会長 石倉俊寛松江市長の逆鱗に触れた。市長は「あのだらしのない走り方は何だ、思い上がりもはなはだしい、予選であれ・決勝であれ、全力を尽くすのがスポーツマンではないか」と、言うのであった。

当時、既に山陰では有名選手になっていた私は、些かテングになっていたかも知れない。市長の言葉を肝に銘じ、以後はどんなレースでも、全力を傾けることとした]と、自分のレース観の変化と、決意を述べているのである。ここに吉岡は、単に走り方のみの問題と受け止めず、真のスポーツマンとしてのあり方を強く内省したのであった。

爾来、吉岡は「所謂勝ちさせればよい主義」をば、断固払拭し「決勝のために力をセーブしたほうがよい」などの忠告も多かったようであるが、吉岡は、スポーツの真髄に生きたと述べているのである。

その後、吉岡は、いよいよと大成し、極東大会或はオリンピックでと、活躍したのであったが、特に昭和10年のオリンピック ロスアンゼルス大会では、その駿足をたたえられ「暁の超特急」の威名をつけられたのであった。この大会で100メートルに優勝したアメリカのトーラン選手は、吉岡と対比して、「深夜の超特急」と言われたのであった。

吉岡のスタートダッシュは、世界一の定評があった、このロス大会でも、吉岡は、60メートルまではトップであったが、抜かれて6位におわった。然し乍らオリンピック大会において、100・200の短距離で、日本選手が、決勝に進出したこと自体、吉岡が初めてである。あれから60年の歳月が流れているが、今尚短距離で、決勝進出は吉岡以外には無いのである。

然も又吉岡の100メートルの記録10秒3は、今も尚日本記録の上位クラスを飾って居るのである。

まことに吉岡は、希代のスポーツマンであるが、その大成への原動力として培いの力に、松江体育協会が大きく影響力を与えていると思うのである。

郷土島根が生んだ吉岡選手・松江体育協会が育てた吉岡選手であるのである。

松江体育協会創立70周年に当り、協会の歴史を偲びつつ、その大きい業績を賛たえるのである。

# 思い出すままに

## 参与 和田 正則

### 松江体育協会の創立

大正2年松江市連合青年会の結成を記念して開催された陸上大運動会が、全山陰オリンピック大会にまで発展。規模も山陰両県はもとより、兵庫・山口両県からも参加があり二日間では終了できず、三日間に及んだこともあった程の盛況振りであった。然し回を重ねる中で、組織の若返りと運営の近代化を叫んで立ち上った青年部を、各新聞報道陣も強く支援し、大正13年5月1日「松江体育協会」の誕生となり、大会の主権は「松江体協」の手に移った。そして翌14年、日本陸上競技連盟が創立された際に、島根・鳥取両県を統轄する団体として迎え入れられた。当時全国で400米公認競技場は十指にも満たなかった時代だったので、公認競技場を持つ松江体協の名は中央からも重視され、陸連全国会議で議長に選出されるなど、先輩の偉大な足跡には驚くべきものがあった。創立のスローガン「普く・絶えず・正しく」の八文字は私にとって終世忘れぬ感銘深い語録である。ちなみに会のマークはMとAの組合せであるが、常務理事園山重之氏の考案である。

### 松江体協事務所を市役所へ

発足当初は、事務所を民間人宅に（昭和4・5年頃は常務理事山口権六氏…北殿町…）置いて運営されていたが、陸上競技場が竣工してからは、中央との連絡が頻繁となるにつれ、主人は銀行勤め、留守番の奥さんでは電話の対応も出来ないといった状態で困った体協側が事務所を市役所で引きうけて欲しいと陳情したのが昭和5年である。

私事で恐れているが、私が松江中学を卒業、市へ勤務したのが昭和4年3月、中国地方初の直走路200米・一周400米のトラックをもつ市営陸上競技場が竣工した年である。その年の7月時の市長高橋節雄氏の英断で当時としては余り他都市に類をみない「社会教育課」が新設され、同課に配属された私は必然的に全山陰陸上大会との深い縁をもつことになった。グラウンドの開場記念第16回全山陰陸上競技選手権大会が開催されたのは9月21・22の両日、社会人1年生の私にとっては思い出に残る初仕事、本当に仕事の虜になり一日一日が楽しくてならなかった。

この実績が買われたのが、前述の体協事務所移管陳情に当って、市長からどうか意見を聞かれ、大変な大仕事にも拘らず臆することなく、引き受けましょうと答えた。

当時の全山陰陸上大会と云えば、市内の小中学校は土曜日は休校して応援団を練り出し、開場機数は観衆で埋め盡される程の熱狂ぶり、如何にしたら競技役員にして貰



えるかと、憧れるほどの華やかな一大イベント、その事務局をやらせて貰えるとは、正に夢のような話であった。

爾来専門職でもない一公務員が、市・県と職場は変わっても、文字通り一貫してスポーツ関係の領域で仕事をさせて貰えたのも、社会人一年生のこの時期における、全山陰との、そして松江体協との出会いがあったらこそであり、今振り返るとき、何かしら前世からの因縁めいたものすら感ずる次第である。それにつけても良き先輩からの励まし、上司の理解・同志・同僚の協力の程にあらためて深く感謝するところである。

#### 岸運動場の建設

近代スポーツの父として広く内外に名声を博した郷里の大先輩、岸清一先生が没せられたのは、昭和8年10月29日、折から明治神宮体育大会が、外苑で開催されている最中、突然発作のため自宅で急逝した。享年67歳、生前の偉業を永く後世に伝えるため、東京出雲学生会の発企で内藤伸氏作の銅像が県庁前現在地に建立されたのが昭和10年10月20日である。

東京から土谷弘毅氏が来松、万端の世話をされ、私もそのお手伝い役を勤めた。銅像建立を機に、博士の出生地雑賀でも、地元雑賀地区に何かを残したいと、町内選出の山尾鶴吉市議の音頭で、岸家からの寄附を基に床几山元放送局南側に小規模ながら総合運動場の建設が計画され、昭和14年6月1日起工、総工費約2万円、勤労奉仕も延べ4,000人に及んだ。翌15年4月開場記念式典が開催され、岸運動場として先人の遺徳を顕彰することになった。然し何分にも悪条件の急斜面を利用しての工事だっただけに、設計書と実態とは隔たり、小校庭程度のトラックと、狭い子供野球場を主体とした広場に過ぎなかったとは云え、戦時中は運動会によく利用されたものの、戦争末期には芋畑に転用されたのは、やむを得ないことといえよう。戦後は余り顧みられぬまま、昭和30年にこの地にミッションスクール誘致の話が持ち上り、市は松徳女学院中学部敷地として売却を決定、売却額の半額は岸家に差し上げたのだった。雑賀地区からは、代替の要望が強かったのに対し、市は現白濁小学校の湖岸側一帯を公園化し「岸公園」と命名したが、現在の市政要覧では「松江湖畔公園」として一括され、その呼称で由来を偲ぶことが出来なくなったことを心残りに思う者は私一人だけではあるまいと思う。

なお元運動場入口に建てられた、立派な石柱はその後学校の片隅に放置されていたのを雑賀公民館が松徳校の了解を得、由来を追加彫刻し、平成3年3月、同校南側築地斜面に移築、校区史蹟として保存してくれたのは喜ばしいことである。

(文責・松江体協事務局)

## 普く絶えず正しく (あまねく たえず ただしく)

「普く」「絶えず」「正しく」が松江体協の3大スローガンであることは広く知られている処です。

然しながら、さて「そのルーツは？」と聞かれると、即座に「こうだ」と答えられる人は現代の体協人のうち一体何人いるのでしょうか。とにかく長い歴史の中に埋没してしまい、そんな貴重な史実を、東京在住の桂隆義氏（元松江体協理事長）からお寄せ頂きました。

遠くに在って尚、松江体協に寄せる同氏の愛情をしみじみと感じられます。

『松江体協スローガン「普く」「絶えず」「正しく」』

『松江体協60年誌』をひもとくと、その冒頭にスポーツ都市宣言と共に『普く絶えず正しく』のスローガンが掲載されている。

このスローガンは50年余も前から今日まで『M』のマークと共に私の脳裡に深く刻まれており懐かしく思うものであるが、このスローガンが制定された史実、経緯などについては、松江体協の誕生に遡らねばならない。

抑々、松江体協は大正13年（1924）に設立されたものであるが、それより更に11年前、大正天皇初の天長節（天皇誕生日）を奉祝して開催された松江市青年大運動会の主催者である松江市聯合青年会が母体であり、これが強化されて松江体協の設立となった由である。

当時のスポーツは『行うスポーツ』より『見るスポーツ』であり、種目としては陸上競技が代表的で市民にとって大きな娯楽の対象であったと聞いている。その為か競技会当日はまるでお祭りか花見のように弁当持参、時には一瓢の酒まで携えて全くの物見遊山となり、従ってそこにはひいきの気分も横溢し果ては観客同士のいさかきも皆無とは言えなかったらしい。こんな状況であったので、選手自身も市民の手前もあり『どげでも勝たにゃならん』と、ややもすればルール軽視もあったようである。

斯くの如き状況を憂えた先輩方は真のスポーツに徹し『見るスポーツ』より『行うスポーツ』そして更には『継続的な』『市民参加のスポーツ』の普及と後年選手代表宣誓の極めつけとなった『正々堂々』たるものでなければならぬ事に着目され、それが松江体協設立と同時に『M』のマークと共にこのスローガンの制定となったものである。

爾来60余年、プログラムや会報にも掲載され今日に至っているのであるが、この深遠な理想を掲げたスローガンこそ、まことに簡にして明、我々の金科玉条として今後も各種大会の頭上に燦として輝く事であろう。いま、改めて松江体協創立の偉業を成し遂げられた数多くの諸先輩、就中原田近、山内佐助、園山重之、裏辻恭太郎、島谷掌三等の故人の方々の温容を偲び、また今も元気で活躍されている先輩方に深い尊敬の念を新たにすものである。



# 松江体育協会80年に想う

参 与 桂 隆 義

**私**が松江体育協会（以下単に体協と記す）に入会したのは昭和7年の春のことであった。その頃会員募集があり、当時松江中学校生徒であったが先輩の和田正則さんよりのおすすめであった。今から72年前のことである。そして桐箱入りのバッヂが届けられた。それは当時珍しい七宝焼で陸上競技場をかたどりフィールドの部分にはMとAを組み合わせたマークが紺地に銀で入り、白地のトラック100米コースにはMTKが赤字で記されている立派なものであり（園山重之氏案）裏面には「純銀」と刻印されていた。

時は流れて昭和48年、初の民間人の理事長に選任され体協運営に携わることになった。昭和54年、松江を離れ副会長を辞任する事になるまで数々の思い出がある。中でも、さよなら陸上競技場、体協法人化等はその最たるものである。

さよなら松江陸上競技場

都市計画に伴い移転することになり昭和52年第2回体育祭において松江市長より競技場運営の功労者として石倉元市長と体協が感謝状を戴くことになり、私は体協理事長として受領した。そして体育祭終了後関係者がフィールドに集まり夕暮れの芝生に円陣をつくり、かがり火を囲んで応援歌などを高唱して別れを惜しんだ。

体協法人化（昭和54年7月2日設立）

昭和57年くにびき国体を控え体協の基盤強化のため法人化（財団法人）が計画され当時市助役であった佐藤副会長が中心となり基金の確保、議会関係の折衝などに努められた。私は体協が古い歴史を持ったものであり、その伝統を後世に残しつつ法人化するものという意味を持たせるために定款にその旨記載する要があると思い強くこれを要請し、第3条に「松江体育協会の伝統と業績を継承し」の文言を入れ創立以来の諸先輩の業績が将来にわたり残されることになった。

回顧すれば、体協のお蔭で数多くの先輩や友人と知り合い交遊を重ねることが出来、そして中には今日まで延々としてつづき、私の人生に大きな潤いを与えているものと思う。茲に創立80年を迎えるに当たり往時を回想し改めて財団法人松江体育協会の更なる発展を祈る次第である。

## 松江体協の誕生とその活動

松江連合青年団によって、連合青年陸上大運動会が大正2年に開催されたことで、**松**本県スポーツの端緒となったが、名称も運動会から山陰オリンピックと変わり、大会の内容も実質的に次第に競技大会としての発展をみせた。

大正12年の第11回の大会を終えると、既に大会規模も大きくなり、運営をはじめ種々の問題も生じ、新しい組織確立への声があがった。そして青年会の解散と共に、13年に新しいスポーツ、運動団体としての松江体育協会の誕生となった。この体協組織の誕生は、全国的にも、極めて早く、中央を離れた地方都市としては驚異的なことでもあった。全国的に見ても、東京、大阪、名古屋、広島という大都市に次いで快挙であった。県体協の組織自体も松江体協がその前進的な役割を果たした。鳥取県も加えて各競技の全山陰大会など、スポーツの中心となる諸行事も松江体協の手によって進展した。大正14年の大日本陸上競技連盟の創立においても、松江体協が山陰を代表する組織として、体協常任理事の島谷掌三がこれに参画し、日本陸連の誕生とともに山陰を代表する加盟団体となり、日本陸連においても有力な1団体となった。昭和11年の日本陸連の組織改革によって、新たに山陰陸上連盟が発足するまで、実質的な山陰地方の陸上競技の統轄団体として存在した。また、陸上競技以外でも卓球・山岳・スキー・水上競技・野球などの諸競技を進興させ、それらの事業を掌握する組織として活動した。青年会に代り、山陰オリンピックの実施運営ということが最大のスポーツ行事であっただけに陸上競技が中心であり、当初は体協とはいえ、陸協のような存在ではあったが、やがて地域において体育・スポーツの組織団体としての組織的な広がりをみせることとなった。結成された当初、陸上競技を中止として、部としてスキー・山岳と卓球部のみであったが、やがて各部委員制となり、陸上競技、スキー、山岳、卓球をはじめ既に松江市を中心に普及していた野球、庭球、球技、水泳の各部をおき、幅広い競技の実質的な組織母体となった。

設立された機構と役員は、会長に高橋義比(松江市長)、副会長古井善之助、高梨秀善、常務理事には井原修三、原田近、林原武雄、園山重之、裏辻恭太郎、山口精六、松井相軒、古満繁、島谷掌三、菅井恒市であった。会長はのち高橋節雄(松江市長)に引き継がれ、昭和4年には、石倉俊寛(松江市長)となり昭和18年まで継続した。各競技種目別の委員制が整い、事務局が市に設置されたことによって、陸上競技のみでなく、水泳をはじめ、庭球、籠球、排球、卓球など各種目の山陰選手権の創始、主催、また、後援団体としても大きな役割を果たした。大正期から昭和にかけて当時未開発であった大山スキー場を舞台にして地方でのスキーの草分けとなったり、昭和4年に完成を見た昭和運動場(後に松江運動場と改称)の実現なども、松江体協としての組織を通しての強力な運動を背景としてのものであった。





# 資料編

歴代役員一覧

90周年事業

※90周年特別表彰

※フォトコンテスト

※協賛事業

※新年総会

# 歴代役員一覽

(平成17年度～26年度)

氏名	役職名	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
□ 現役員(H26現在)		2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
松浦正敬	会長	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
中村晴洋	副会長	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
廣江朝夫	副会長	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
松浦嘉昭	副会長	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
石倉孝昭	顧問	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
小村宏	参与	■	■								
吉岡俊雄	参与	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
福田弥彦	参与	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
藤原善夫	参与	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
桂隆義	参与	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
河原薫	参与	■	■	■							
門脇弘晃	専務理事	■									
長野正夫	専務理事		■								
中島秀夫	専務理事			■							
松浦克司	専務理事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
松浦廣行	理事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
藤原春昌	理事	■	■	■							
釜田彰	理事					■	■	■	■	■	■
加藤富章	理事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
須田浩次	理事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
出川修治	理事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
金山滉	理事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
高木大	理事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
野津一雄	理事									■	■
上代裕一	理事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
岩田篤明	理事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
津森邦夫	理事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■



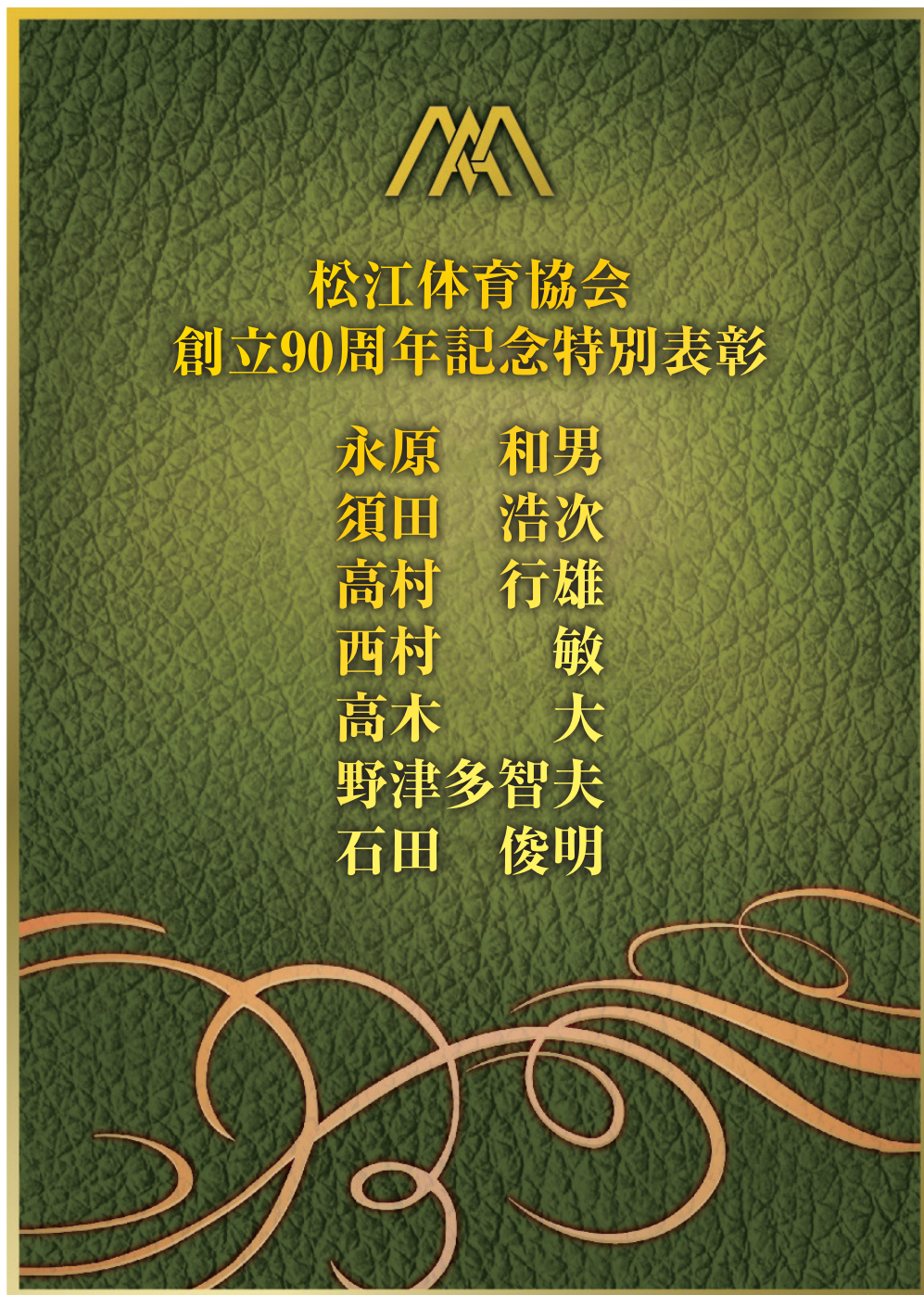
(平成17年度～26年度)

氏名	役職名	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
現役員(H26現在)		2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
北尾元載	理事	■	■								
和田恭明	理事	■	■								
川井弘光	理事			■	■	■	■				
福田信夫	理事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
高橋庫一	理事	■	■	■	■						
和田智	理事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
永原和男	理事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
高麗久義	理事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
齋藤重徳	理事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
野津多智夫	理事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
泊泰三	理事	■	■								
園山哲也	理事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
高村行雄	理事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
坪倉大吾	理事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
高木茂	理事	■	■								
西村敏	理事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
平江浩子	理事			■	■	■	■	■	■	■	■
松村光洋	理事			■	■	■	■	■	■	■	■
弥重美恵子	理事			■	■	■	■				
渡部文夫	理事									■	■
小中徹	理事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
石田俊明	監事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
森江和吉	監事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
松村光洋	監事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

# 90周年記念事業

(松江体育協会創立90周年記念特別表彰)

松江体育協会創立90周年を記念し、松江体協の役員として10年以上継続して本会の充実発展に献身的な努力を続け、スポーツの振興に尽された方々の功績を讃えます。





# 90周年記念事業 (フォトコンテスト)

スポーツに関する写真なら何でもOK!  
松江で撮ったお気に入りの1枚を応募しよう!

松江体育協会  
創立90周年記念

**まつえ  
スポーツフォト  
コンテスト**  
Matsue Sports Photo Contest

平成26年 11/28(金) 応募締切

優秀作品は表彰・賞品あり

協賛(賞品提供)  
松江ニューアーバンホテル本館・別館  
ファインショップ 出雲店  
株式会社 愛スポーツ

ご応募・お問い合わせは  
公益財団法人  
**松江体育協会**  
〒690-8540 松江市末次町186番地 松江市役所 第3別館2階  
TEL(0852)24-7227  
FAX(0852)24-7231  
E-mail:matsue-taikyo@able.ocn.ne.jp  
<http://www.matsue-taikyo.com>  
松江体育協会  検索





松江体育協会  
創立90周年記念

**まつえ  
スポーツフォト  
コンテスト**  
Matsue Sports Photo Contest

入賞者

松江体育協会の創立90周年を記念して実施した  
フォトコンテストの入賞作品は、次のとおりです。

**【最優秀賞】**  
松江市立  
湖南中学校様  
「夢に向かっ」

出展作品の中には、一面の動きを見事に捉えた撮影技術に感銘を受けた作品も多数見られましたが、空想や手を伸ばすでも、たまたまとらえた本作品が、90周年記念誌の「未来」に響いてほしいという思いも重なり合うもので、最終的に審査員全員一致で最優秀作品と評価しました。

**【優秀賞】**  
相本五郎様  
「重いボールを打つ瞬間」

角 亜津子 様「ナイスファイト」

渡辺正史 様「力漕」

三好和乃 様「結束」

森部寿一 様「クロスプレー」




# 90周年記念事業

## (松江体育協会90周年記念協賛事業)

日程	大会名	団体	参加状況
4/26~27	第97回全山陰陸上競技大会	松江市陸上競技協会	1,368名
5/20	第10回松江市小学校連合体育大会	松江市小学校体育連盟	約4,000名
6/22	少林寺拳法2014鳥根県大会兼全国大会予選	松江市少林寺拳法協会	75名
6/28	第50回松江地区少年剣道大会	松江地区剣道連盟	373名
7/19~20	第10回レディース・ドリーム中国第7回全国レディース・ドリームinまつえ	(一社)鳥根県サッカー協会松江支部	約85名
7/20~21	海辺の合宿&海辺の表演交流大会	松江太極拳協会	39名
8/3~9/28	第14回松江市長杯争奪軟式野球選手権大会	松江市軟式野球連盟	500名
8/23	ちびっこ相撲大会	松江市相撲連盟	25名
8/16	第42回松江市夏季ハンドボール大会	松江ハンドボール協会	18チーム
8/31	第19回松江バレーボール協会会長杯	松江バレーボール協会	17チーム
8/31	第25回鈴木カップ公民館対抗ソフトテニス大会	松江市ソフトテニス協会	10チーム
9/13~14	平成26年度全日本選手権中国ブロック大会	松江市アマチュアボクシング協会	12名
9/14~15	第60回松江オープン卓球大会	松江市卓球連盟	568名
9/20	第37回松江オープンバドミントン大会平成26年秋季大会	松江市バドミントン協会	88組(176名)
10/19	第65回松江地区柔道大会	松江地区柔道連盟	229名
10/26	第2回松江市市域体育協会交流ソフトボール大会	松江市ソフトボール協会	9チーム
10/26	平成26年度松江市近隣親善ゲートボール大会	松江市ゲートボール協会	30チーム
11/3	松江市武道大会	松江市弓道連盟	136名
11/9	第18回松江市民室内水泳競技大会	松江水泳連盟	220名
11/9	2014堀川ふれあいカヌースラローム大会	松江カヌー協会	23名
11/16	第60回まつえ駅伝フェスティバル	松江市陸上競技協会	26チーム
11/30	平成26年度冬季松江市民テニス大会	松江テニス協会	238名
12/6~7	ディフェンズイオンカップ兼西日本フェンシング広瀬町大会	松江市フェンシング協会	138名
12/14	第39回松江市民体操デー第42回松江市小学生体操大会第39回松江市中学生体操大会	松江市体操連盟	163名
1/11	松江少年少女レスリングフェスティバル2015	松江地区レスリング協会	約250名
1/18	平成26年度なぎなた教室	松江市なぎなた連盟	約30名
1/31~2/1	第28回葵ライオンズクラブ杯小学生バスケットボール大会	松江市バスケットボール協会	29チーム(1,160名)
2/1	松江市民スキー教室(兼鳥根県東部地区スキー教室)	松江スキー協会	33名
3/22	松江アーチェリー協会総会及び記録会	松江アーチェリー協会	約20名



# 90周年記念事業 (松江体育協会90周年記念協賛事業)



第19回松江バレーボール協会会長杯



第37回松江オープンバドミントン大会  
平成26年秋季大会



平成26年度全日本選手権中国ブロック大会  
(松江アマチュアボクシング協会)



松江市武道大会(松江市弓道連盟)



第65回松江地区柔道大会



第18回松江市民室内水泳競技大会



第60回まつえ駅伝フェスティバル



ちびっこ相撲大会



第42回松江市夏季ハンドボール大会



創立90周年記念  
平成27年

公益財団法人 松江体育協会  
新年総会

平成27年1月12日(月) ホテル一畑「サンシャインホール」  
「平安の間」

次第

<総会>

1. 開会
2. 国歌斉唱
3. 主催者あいさつ
4. 祝辞
5. 表彰
6. 宣言決議
7. フォトコンテスト表彰
8. 閉会

<懇親会>

1. 開会
2. 乾杯
3. 懇談
4. 万歳三唱
5. 閉会

<トークイベント>

テーマ：「オリンピックへの道」

ゲスト：日本体育大学児童スポーツ教育学部助教

田中理恵氏

(ロンドン五輪体操女子代表)



## 【新年総会開催報告】

### <総 会>

本年は、創立90周年を記念しての新年総会ということもあり、関係諸団体から例年を上回る約400名の皆様の参加を得て、盛大に開催いたしました。

体協表彰では、『90周年特別表彰』7名、『特別功労賞』6名、『功労賞』7名、『優秀選手・優秀チーム（代表）表彰』58名に、また併せて、松江市地域体育協会連合会の功労者13名の表彰も行い、それぞれトロフィー、メダル等を授与し、その功績を称えました。

特に本年は『特別功労賞』に選手として、渡利璃穂選手（レスリング）、青山聖佳選手（陸上競技）、梶谷隆幸選手（プロ野球）、新宮有依選手（女子硬式野球）の4名、また指導者として高村行雄氏、川本恵美氏の2名が、平成18年度に『特別功労賞』を設けて以来、最多となる6名の方が受賞され、90周年を飾るにふさわしい表彰式となりました。

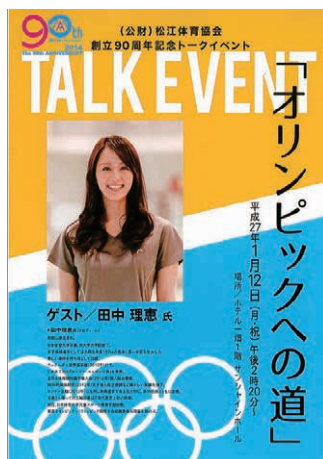


# 90周年記念事業 (新年総会)

## <トークイベント>

『オリンピックへの道』と題し、オリンピック（ロンドン五輪）の田中理恵氏をお迎えして、トーク形式でプライベートからオリンピックに向けてまで様々なお話を聞くことができました。

フリーアナウンサーの布野まちこさんの絶妙な司会で、終始和やかな雰囲気が進められ、最後には場内のリクエストにこたえ、世界選手権エレガンス賞に輝いた美しいポーズを披露され、会場からは大きな拍手と歓声が上がっていました。



## <市長（会長）表敬>

総会前に田中理恵氏が、市長（会長）表敬されました。



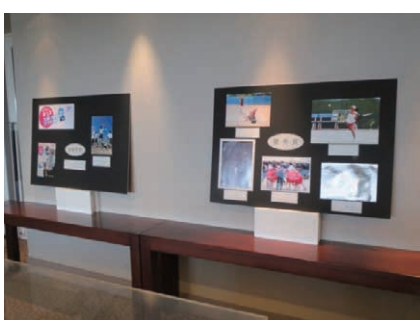
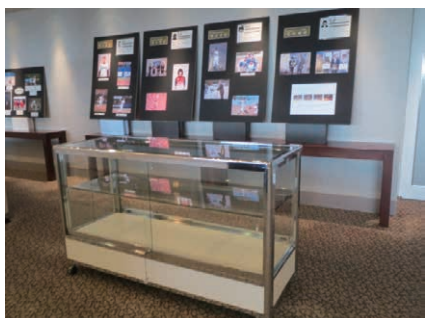


## <懇親会>

会場を1階「サンシャインホール」から2階「平安の間」に移して、新年の抱負やスポーツに対する熱い思いなどを235名の参加者がそれぞれに語り合い、賑やかに交流・親睦を図ることができました。



## <展示物> 1F「サンシャインホール前」



## 創立90周年実行委員会委員名簿

委員長	金 山	滉	(総務企画委員長)
副委員長	高 木	大	(普及強化委員長)
副委員長	永 原	和 男	(財務委員長)
委 員	高 麗	久 義	(総務企画委員)
	園 山	哲 也	(総務企画委員)
	出 川	修 治	(総務企画委員)
	野 津	多智夫	(総務企画委員)
	和 田	智	(総務企画委員)

公益財団法人 松江体育協会創立90周年記念誌

### 「未来につなぐ夢」

発 行 平成27年3月

編集・発行 公益財団法人 松江体育協会







図 案 MATSUE・ATHLETIC・ASSOCIATION,  
頭文字の組合せ、白地にMは青、Aは赤

創 作 大正13年 元常務理事 園山 重之